千葉市宮野木原第２遺跡

―長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書―

２０１６

清　　宮　　正　　雄

公益財団法人　千葉市教育振興財団

千葉市宮野木原第２遺跡

―長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書―

２０１６

清　　宮　　正　　雄

公益財団法人　千葉市教育振興財団

例言

1　本書は、千葉市稲毛区宮野木町822に所在する宮野木原第２遺跡の長屋住宅建設に伴う発掘調査報告書である。
2　発掘調査および整理作業は、清宮正雄の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
3　発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
・確認調査
期間：2015（平成27）年６月５日～６月10日
面積：70/833.48㎡　　担当者：倉田義広・佐藤洋
・本調査
期間：2015（平成27）年９月４日～2015（平成27）年10月13日
面積：240㎡　担当者：小林嵩
4　整理および本書の製作・編集は、小林と塚原勇人が担当して行った。
5　整理期間は、2015（平成27）年10月１日～2016（平成28）年３月18日にかけて、断続的に行った。
6　遺構・遺物の撮影は小林・塚原が行った。
7　本書の執筆は附編を西野雅人が、それ以外を小林が執筆した。
8　出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
9　発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。
千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・清宮正雄・大東建託株式会社

凡例

1　本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
2　土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。
3　本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
遺構実測図：1/40・1/80・1/200・1/25000
遺物実測図：土器1/3・1/4　石器・石製品：2/3・1/3
土製品・鉄製品：1/3
4　遺構・遺物の図面はAdobe Systems社製Adobe Illustratorで編集作業を行った。
5　遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems社製Adobe Photoshopで編集作業を行った。
6　第１図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図より作成したものである。
7　遺構配置図・遺物実測図では、各遺構を下記の通りの略称で表記している。
土坑＝SK　竪穴住居跡＝SI
8　主軸方位が記載されているものは、カマドが検出されたものに限定した。また、主軸方位はカマドを基準としている。

目次

例言・凡例
目次
第１章　宮野木原第２遺跡の概要……1
　1　遺跡の位置及び周辺遺跡……1
　2　過去の調査歴……1
　3　調査の方法……1
第２章　遺構・遺物……3
　1　縄文時代……3
　2　古墳時代～平安時代……5
　3　時期不明……17
第３章　附編　貝サンプルの分析結果……21
第４章　まとめ……23
写真図版
抄録

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表 …… 2
第２表　出土遺物観察表(1) …… 18
第３表　出土遺物観察表(2) …… 19
第４表　出土遺物観察表(3) …… 20
第５表　出土遺物集計表 …… 24

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　遺構配置図 …… 2
第３図　第２号土坑 …… 3
第４図　縄文時代遺構外出土遺物 …… 4
第５図　縄文時代出土遺物（確認調査）…… 4
第６図　第１・２・３・５号竪穴住居跡 …… 6
第７図　第５号竪穴住居跡 …… 7
第８図　第１・２・３号竪穴住居跡 …… 7
第９図　第３・５号竪穴住居跡 …… 8
第10図　第４・６・７・10・12号竪穴住居跡 …… 10
第11図　第４・６・７・10号竪穴住居跡 …… 11
第12図　第10号竪穴住居跡 …… 12
第13図　第７・12号竪穴住居跡 …… 12
第14図　第４号竪穴住居跡(1) …… 13
第15図　第４号竪穴住居跡(2) …… 14
第16図　第６号竪穴住居跡 …… 14
第17図　第７号竪穴住居跡 …… 15
第18図　第10号竪穴住居跡 …… 15
第19図　第８号竪穴住居跡 …… 16
第20図　第９号竪穴住居跡 …… 16
第21図　第11号竪穴住居跡 …… 16
第22図　古墳時代遺構外出土遺物 …… 17
第23図　第１号土坑 …… 17

写真図版目次

図版１　第２号土坑全景・第１・２・５号竪穴住居跡全景・第１号竪穴住居跡全景・第２号竪穴住居跡カマド全景・第５号竪穴住居跡全景・第５号竪穴住居跡遺物出土状況・第３号竪穴住居跡遺物出土状況・第４・６・７・10・12号竪穴住居跡全景
図版２　第４・10号竪穴住居跡全景・第４号竪穴住居跡全景・第４号竪穴住居跡カマド全景・第４号竪穴住居跡貯蔵穴遺物出土状況・第６号竪穴住居跡全景・第10号竪穴住居跡全景・第10号竪穴住居跡カマド土層断面・第11号竪穴住居跡全景
図版３　縄文時代遺構外出土遺物・縄文時代出土遺物（確認調査）
図版４　第１～４号竪穴住居跡出土遺物
図版５　第４～６号竪穴住居跡出土遺物
図版６　第７～11・古墳時代遺構外出土遺物

第１章　宮野木原第２遺跡の概要

１　遺跡の位置及び周辺遺跡（第１図）

宮野木原第２遺跡は、花見川と都川の間を流れる花園川に面した標高約23mを測る台地上に位置している。本遺跡周辺では、旧石器時代～近世まで多くの遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡としては、牛尾舛遺跡や小中台遺跡で石器ブロックが検出され、ナイフ形石器や剥片類が出土している。縄文時代の遺跡としては、早期の貝塚である鳥込東貝塚や鳥込貝塚、炉穴群が検出されたエゴダ遺跡があり、前期の遺跡は谷津台貝塚がある。中期の遺跡としては牛尾舛遺跡・小中台Ａ遺跡で加曽利ＥⅡ～Ⅳ式期の集落が確認されている。弥生時代は周辺での遺跡の形成は活発ではないが、弥生時代終末期以降になると再び集落が形成される。牛尾舛遺跡や小中台Ａ遺跡・小中台遺跡で弥生時代終末期～古代にかけての集落が検出され、宮野木原第２遺跡に近接する東海道遺跡でも古墳時代後期の集落があり、長期に亘る土地利用が認められる。また、古墳時代後期には牛尾舛遺跡で円墳も検出されている。中世の遺跡としては城山城跡が存在している。

２　過去の調査歴

宮野木原第２遺跡の調査が行われたのは今回が初めてであるが、直近の遺跡では過去に調査が行われている。平成23年度には、宮野木原第２遺跡と小支谷を挟んだ台地上に位置する宮野木原遺跡の調査が行われ、縄文時代早期の集石遺構・条痕文系の土器が検出されている。また、平安時代の竪穴住居跡が１軒検出されたほか、中世の地下式坑や溝状遺構、台地整形区画などが検出されている。遺物としては陶磁器類や内耳土鍋、銭貨や五輪塔が出土し、貝類や馬などの動物遺存体も検出されている。平成26年度には、宮野木原第２遺跡と同一台地上に位置する東海道遺跡の調査が行われ、加曽利Ｅ式期の遺物、古墳時代後期の竪穴住居跡が密集して検出されている。

３　調査の方法

発掘調査では、調査区内にグリッドを設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、このグリッドを基準として行った。グリッドは５ｍ単位とし、南北方向は算用数字で、東西方向はアルファベットの大文字で表記した。

参考文献

伊庭彰一1985『エゴダ遺跡北地区調査報告』国際企画開発株式会社

田中英世2007『千葉市小中台Ａ遺跡』株式会社アーネストワン・財団法人千葉市教育振興財団

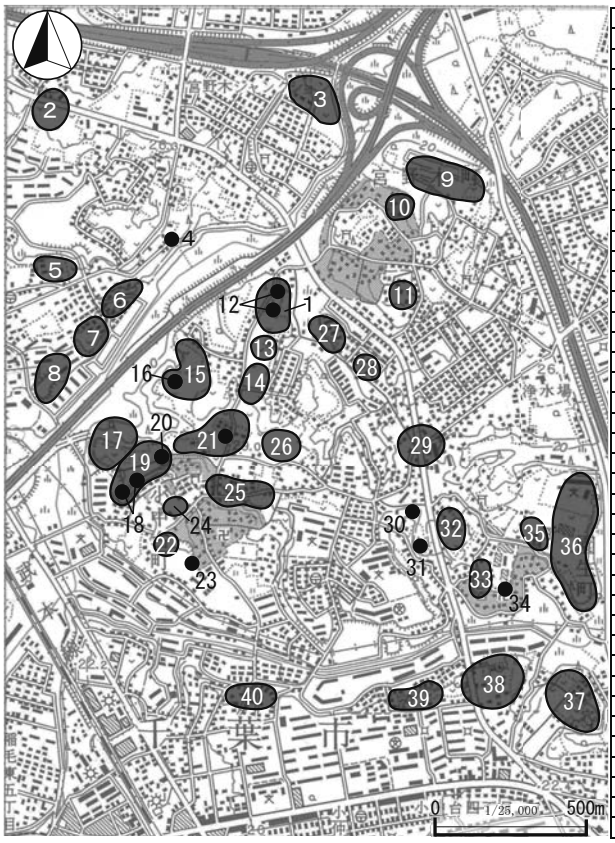
萩原恭一編1989『千葉市小中台（２）遺跡・新堀込遺跡・馬場遺跡　千葉都市計画道路３・４・43号磯辺・茂呂町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３』（『千葉県文化財センター調査報告』第160集）千葉県都市部

飛田正美1997『千葉市小中台Ａ遺跡・牛尾舛遺跡』千葉市小中台牛尾舛土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

古内茂2000「鳥込貝塚」（『千葉県の歴史』資料編　考古１（旧石器・縄文時代）県史シリーズ９）千葉県

古谷渉2012『宮野木原遺跡－平成23年度－』千葉市教育委員会・財団法人千葉市教育振興財団

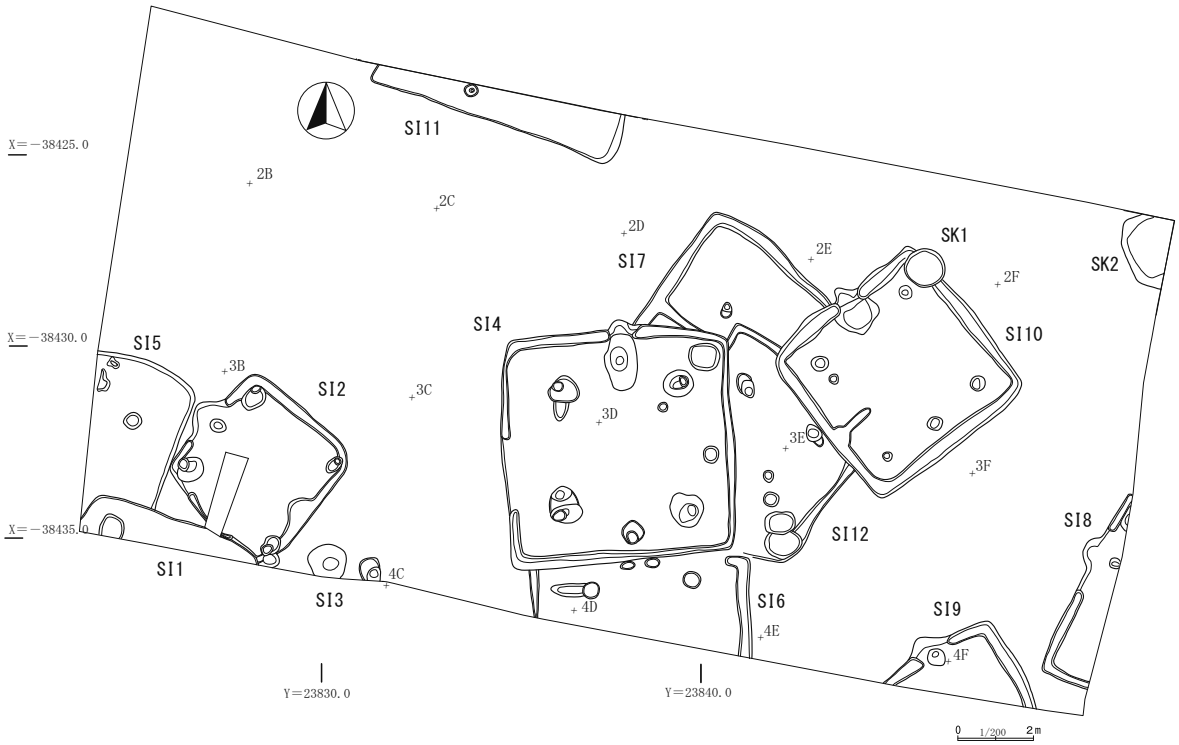
谷津台貝塚調査団1982『谷津台貝塚』千葉市遺跡調査会



第１図　遺跡位置図

番号	遺跡名	時代
1	宮野木原第2遺跡	縄文
2	馬喰作遺跡	平安、中世
3	草原古墳群	古墳
4	鳩原古墳群	古墳
5	鳥込遺跡	
6	鳥喰東遺跡	縄文（早・前・中・後・晩）
7	鳥込東貝塚	縄文（早・中）
8	鳥込貝塚	縄文（早）
9	定原遺跡	縄文（中）、奈良、平安
10	長沼遺跡	
11	名木遺跡	奈良、平安
12	宮野木原古墳群	古墳
13	東海道遺跡	縄文、古墳、奈良、平安
14	宮野木原南遺跡	縄文（早・中）
15	牛尾舛遺跡	旧石器、縄文（中）、古墳（前・後）
16	牛尾舛古墳	古墳
17	谷津台遺跡	縄文（早・前・中・後）
18	塚原古墳群	古墳
19	小中台B遺跡	縄文（後）、古墳
20	牛尻古墳	古墳
21	小中台A遺跡	旧石器、縄文（中・後）、古墳（中・後）、奈良
22	城山遺跡	古墳、近世
23	城山古墳	古墳
24	城山城跡	縄文、弥生、中世
25	東ノ上貝塚	縄文（中・後）、古墳（前）、平安
26	新堀込遺跡	旧石器、縄文（中・後）
27	宮野木原遺跡	古墳（後）
28	堀田遺跡	縄文(中)
29	馬場遺跡	旧石器、縄文（中）、古墳（後）、奈良、平安
30	西街道古墳	古墳
31	西街道塚	中世
32	西街道遺跡	
33	高崎遺跡	縄文(後)
34	高崎古墳群	古墳
35	坪ノ内遺跡	縄文
36	下田遺跡	縄文、古墳（後）、奈良、平安
37	狐塚遺跡	
38	狐塚西遺跡	縄文（中・後）、古墳（後）
39	女子校裏遺跡	縄文（早・後）
40	向原遺跡	縄文（早）

第１表　周辺遺跡一覧表



第２図　遺構配置図（S=1/200）

第２章　遺構・遺物

１　縄文時代（第２・５表・第３～５図）

（１）概要

遺構は土坑１基が検出された。遺構外からは早期・前期・中期の遺物が出土している。遺物の総数は集計表（第５表）に記載した。また、確認調査で竪穴住居跡１軒が検出された。確認調査で出土した遺物類もここで報告する。

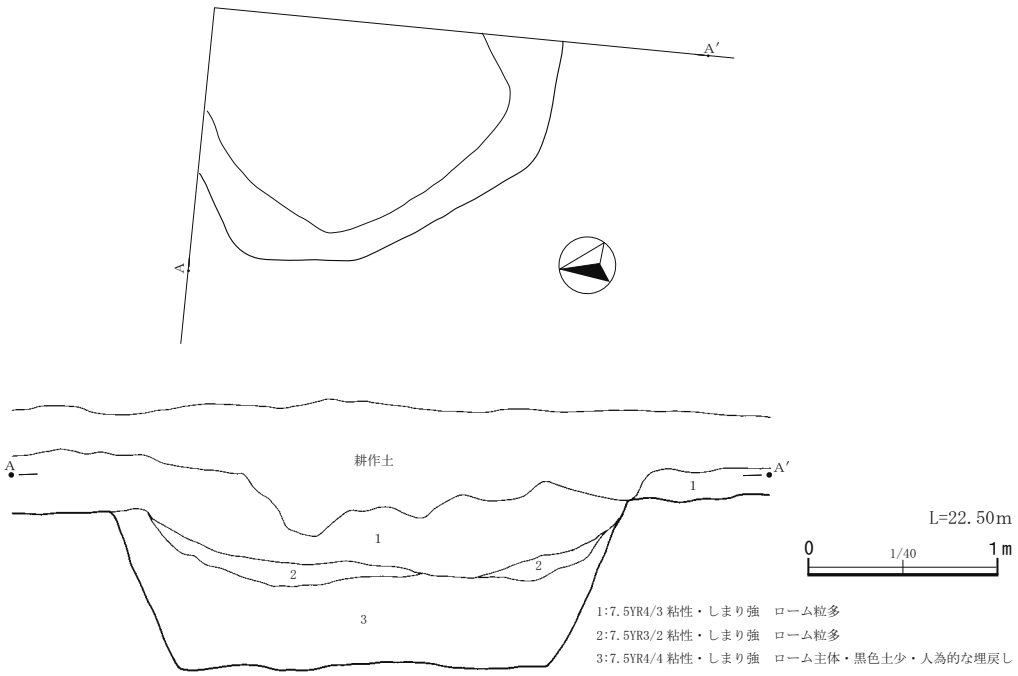
（２）土坑

第２号土坑（第５表、第３図）

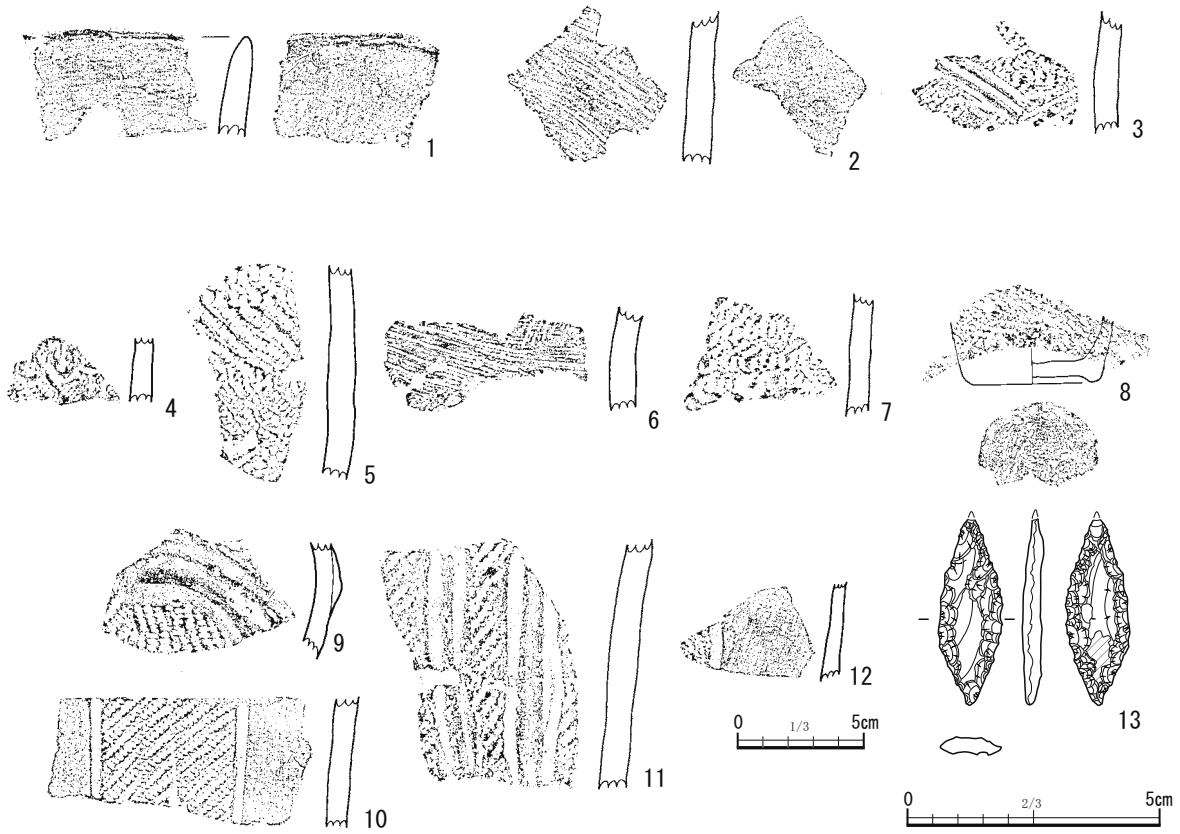
位置：１Ｆグリッド。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸〈2.06m〉、短軸〈1.52m〉、深さ0.89m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。３層は人為的な埋戻しと考えられる。遺物：古墳時代中期の土師器が覆土中から出土している。時期：平面形態及び覆土から縄文時代。

（３）遺構外出土遺物・確認調査出土遺物（第２・５表、第４・５図）

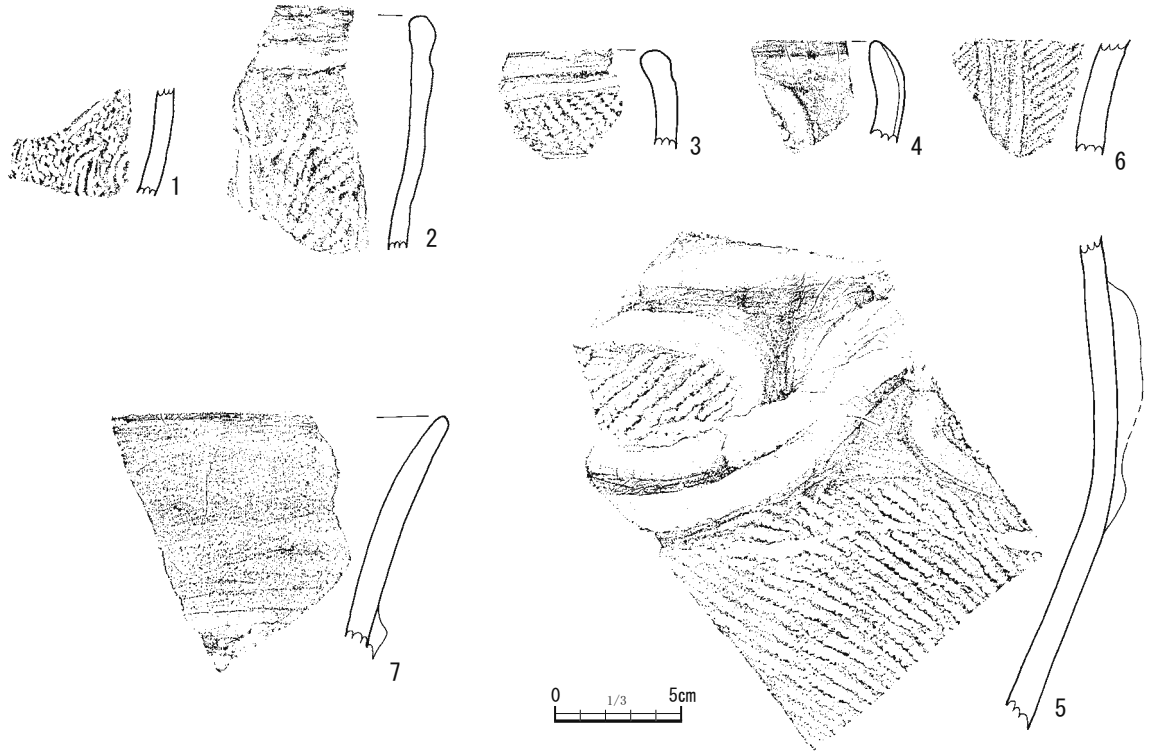
本調査で検出された遺構は土坑１基だが、各遺構の覆土及び調査区内から縄文時代の遺物が出土し、確認調査では竪穴住居跡が１軒検出された。第５図２～７は確認調査時の竪穴住居跡覆土からの出土であり、遺構の時期は加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期と考えられる。



第３図　第２号土坑



第４図　縄文時代遺構外出土遺物



第５図　縄文時代出土遺物（確認調査）

２　古墳時代～平安時代（第２～５表・第６～22図）

（１）概要

古墳時代中期～平安時代の竪穴住居跡が12軒検出され、遺構の密度は高い。各竪穴住居跡の遺物の総数は集計表（第５表）に記載した。

（２）竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡（第２・５表、第６・８図）

位置：３Ａ・Ｂグリッド。重複関係：第２・５号竪穴住居跡と重複し、第２号竪穴住居跡より古く第５号竪穴住居跡より新しい。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸〈4.75m〉、短軸〈1.02m〉、深さ0.68m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は全体的に硬化している。壁溝は確認されずピット１基が検出され、床面及び柱穴内の覆土から白色粘土が検出された。遺物：覆土中から古墳時代後期の土師器が出土し、そのほとんどが破片で占められている。時期：出土遺物から古墳時代後期、TK217型式期。

第２号竪穴住居跡（第２・５表、第６・８図）

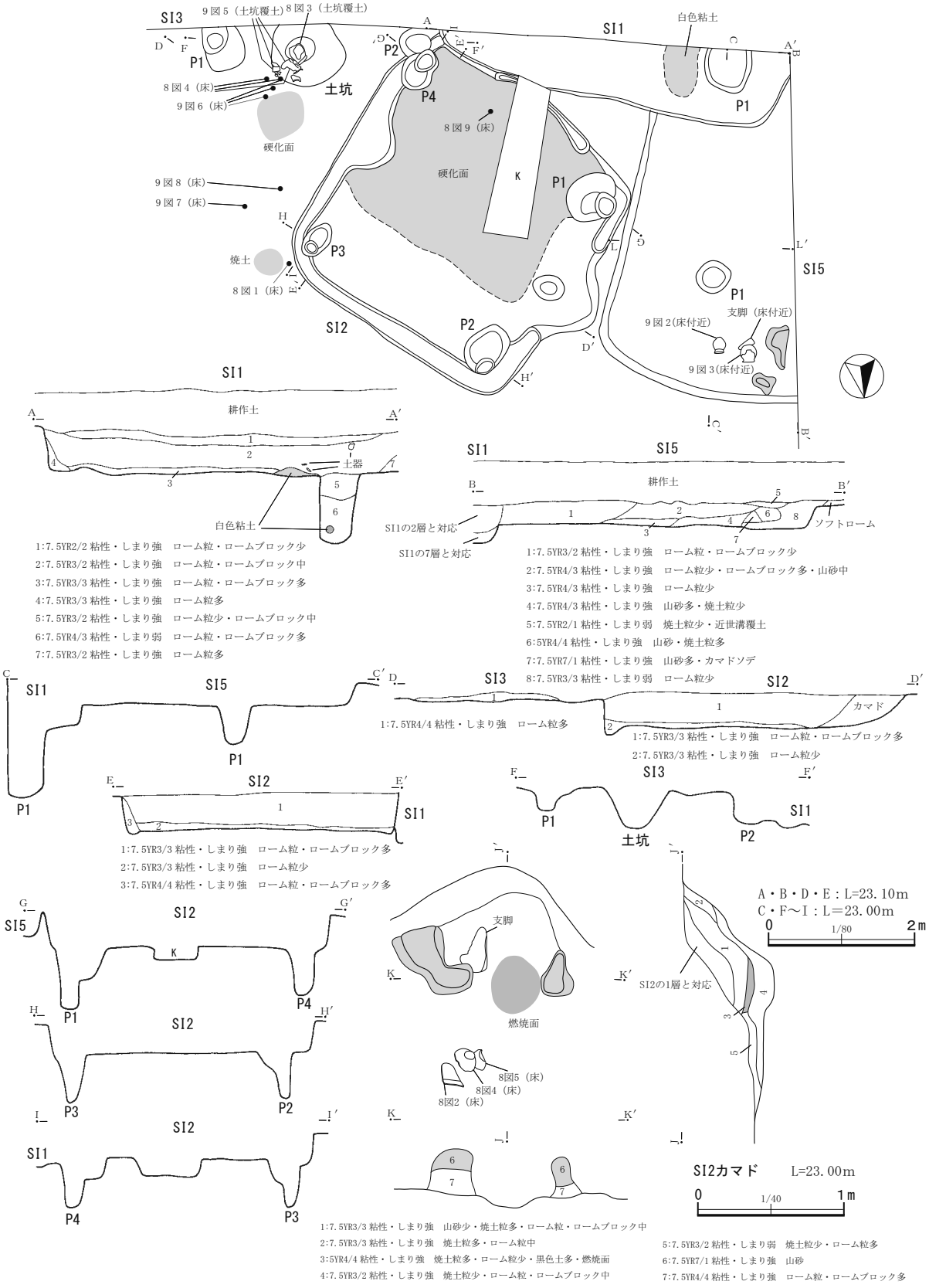
位置：３Ａ・Ｂグリッド。重複関係：第１・３号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：方形。規模：長軸4.15m、短軸3.92m、深さ0.42m。主軸Ｎ-45°-Ｗ。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は部分的に硬化している。壁溝は一部途切れ、深さは0.14mを測る。ピット５基とカマドが検出された。遺物：床面及びカマドの前庭部から平安時代の遺物がややまとまって出土している。時期：出土遺物から８世紀末～９世紀初頭。

第３号竪穴住居跡（第２・５表、第６・８・９図）

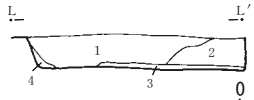
位置：３Ｂグリッド。重複関係：第２号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。一部調査区外。平面形態：不明。構造：ピット２基・土坑１基及び硬化面・焼土が検出され、遺物も土坑内からまとまって出土したため住居跡と判断した。遺物：土坑内及び硬化面・焼土周辺から古墳時代中期の土師器がまとまって出土している。時期：出土遺物から古墳時代中期後半。

第４号竪穴住居跡（第２・３・５表、第10・11・14・15図）

位置：２Ｃ・Ｄ・３Ｃ・Ｄグリッド。重複関係：第６・７・12号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：方形。規模：長軸6.21m、短軸6.18m、深さ0.53m。主軸Ｎ-２°-Ｗ。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は一部途切れ、深さは0.06mを測る。ピット５基、貯蔵穴１基、カマドが検出された。住居内覆土からは部分的に焼土が検出されている。床面は部分的に硬化し、一部貼床である。また、南西側からは本住居の覆土を掘り込む土坑が確認され、中から貝層が検出されている。それらの詳細については附編で詳述する。遺物：覆土中から古墳時代中期～後期にかけての遺物が大量に出土した。古墳時代中期の遺物は重複する第７・12号竪穴住居跡に由来すると考えられる。また、羽口や鉄滓などの遺物も覆土中から出土している。床面付近からもまとまって出土し、第14図３～５はカマド袖西側から重なって出土し、第15図24は貯蔵穴の上面から出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期、TK43型式期。

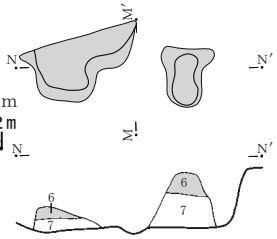


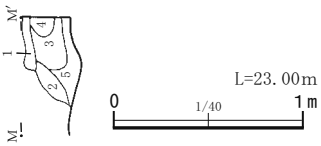
第６図　第１・２・３・５号竪穴住居跡



1:7.5YR3/2 粘性・しまり強　ローム粒中・ロームブロック・焼土粒少
2:7.5YR4/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
3:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム主体
4:7.5YR4/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多

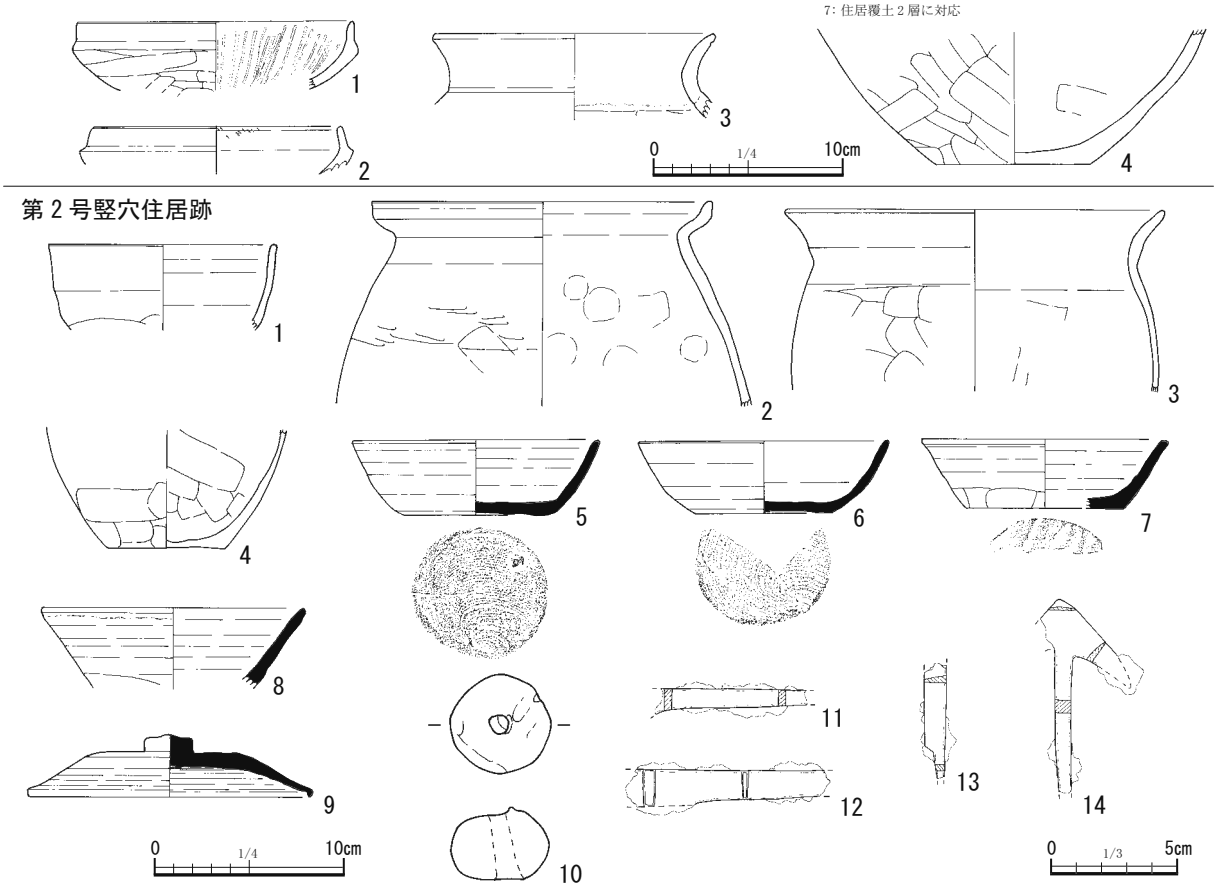
第１号竪穴住居跡

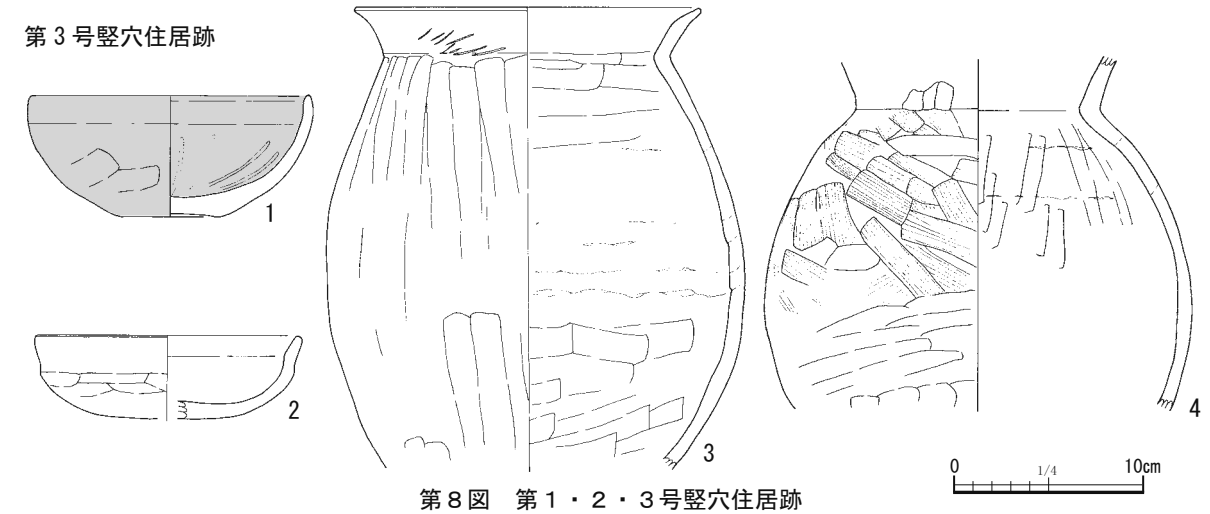




1:7.5YR4/4 粘性弱・しまり強　山砂多・焼土粒中
2: 住居覆土１層に対応
3:7.5YR5/3 粘性弱・しまり強　山砂主体・黒褐色粒中
4:5YR4/4 粘性弱・しまり強　焼土主体・黒褐色粒中
5:7.5YR4/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
6:7.5YR7/1 粘性・しまり強　山砂・カマドソデ
7: 住居覆土２層に対応

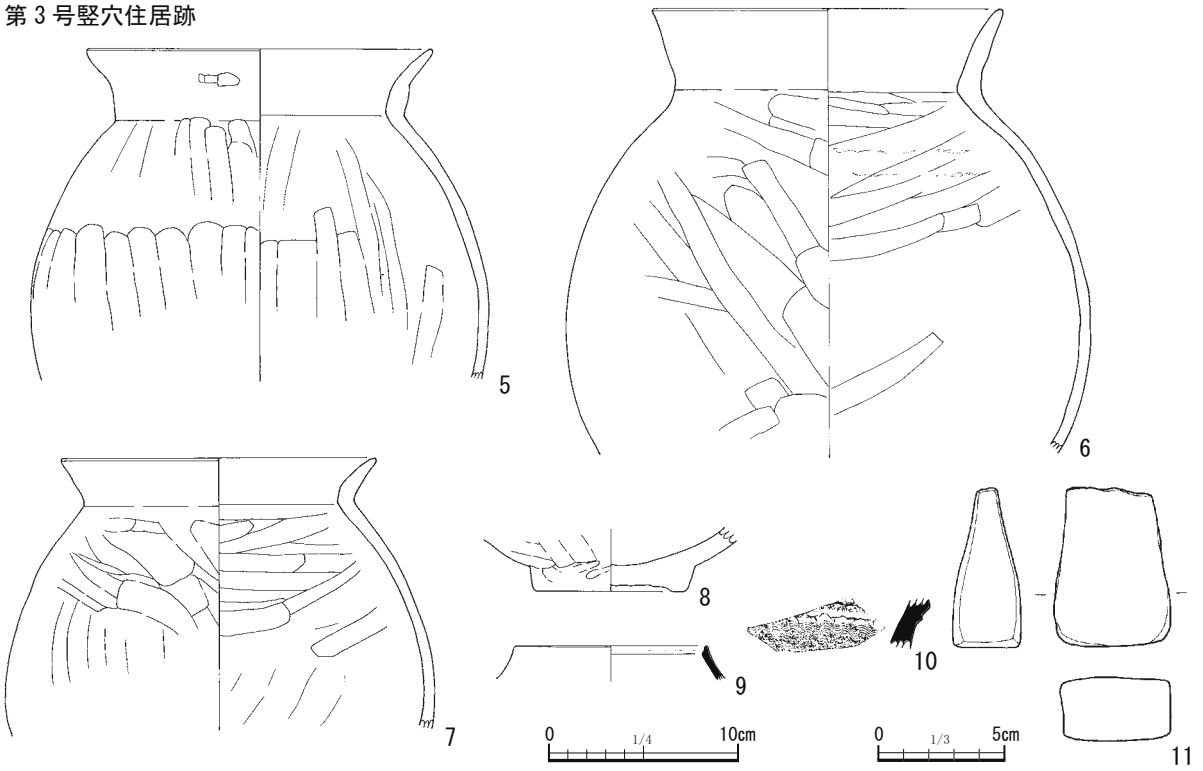
第７図　第５号竪穴住居跡



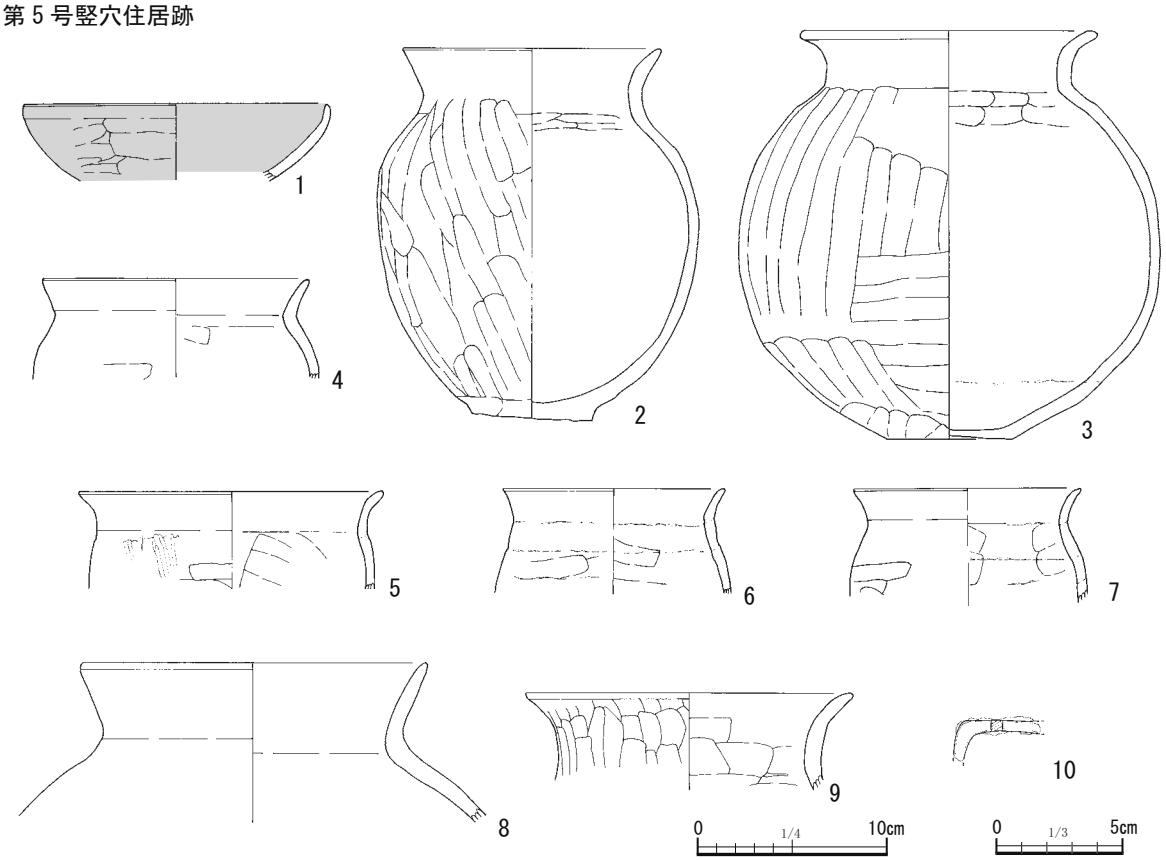


第８図　第１・２・３号竪穴住居跡

第３号竪穴住居跡



第５号竪穴住居跡



第９図　第３・５号竪穴住居跡

第５号竪穴住居跡（第３・４表、第６・７・９図）

位置：３Ａグリッド。重複関係：第１号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸〈4.53m〉、短軸〈2.85m〉、深さ0.32m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は確認されず、ピットが１基検出された。カマドも検出されたが、覆土の状況から原位置を留めていないものと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代中期の土師器が出土し、カマド付近からは支脚及び甕が出土している。第９図３は支脚上から出土した。時期：出土遺物から古墳時代中期後半。

第６号竪穴住居跡（第４・５表、第10・11・16図）

位置：３Ｃ・Ｄ・４Ｃ・Ｄグリッド。重複関係：第４号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸〈5.80m〉、短軸〈2.18m〉、深さ0.52m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は調査区内では全周し、深さは0.11mを測る。ピットが４基検出され、Ｐ３・４はカマドに伴うものと考えられる。カマドは残存していなかったが、第４号竪穴住居跡南壁際や本遺構のＰ３・４周辺からは山砂が検出されている。遺物：覆土中及び床面から古墳時代後期の土師器が出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期。

第７号竪穴住居跡（第４・５表、第10・11・13・17図）

位置：１Ｄ・Ｅ・２Ｄ・Ｅ・３Ｄ・Ｅグリッド。重複関係：第４・10・12号竪穴住居跡と重複し、第４・10号竪穴住居跡より古く、第12号竪穴住居跡より新しい。第12号竪穴住居跡を拡張したものと考えられる。平面形態：方形。規模：長軸〈7.0m〉、短軸〈6.92m〉、深さ0.44m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は検出された範囲では全周し、深さ0.12mを測る。ピットが４基、貯蔵穴が１基検出され、貯蔵穴２が本遺構に伴うものと考えられる。また、間仕切り溝が１条検出された。炉は検出されず、後に破壊されたものと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代中期の土師器・土製品・石製品が出土している。時期：出土遺物から古墳時代中期後半。

第８号竪穴住居跡（第４・５表、第19図）

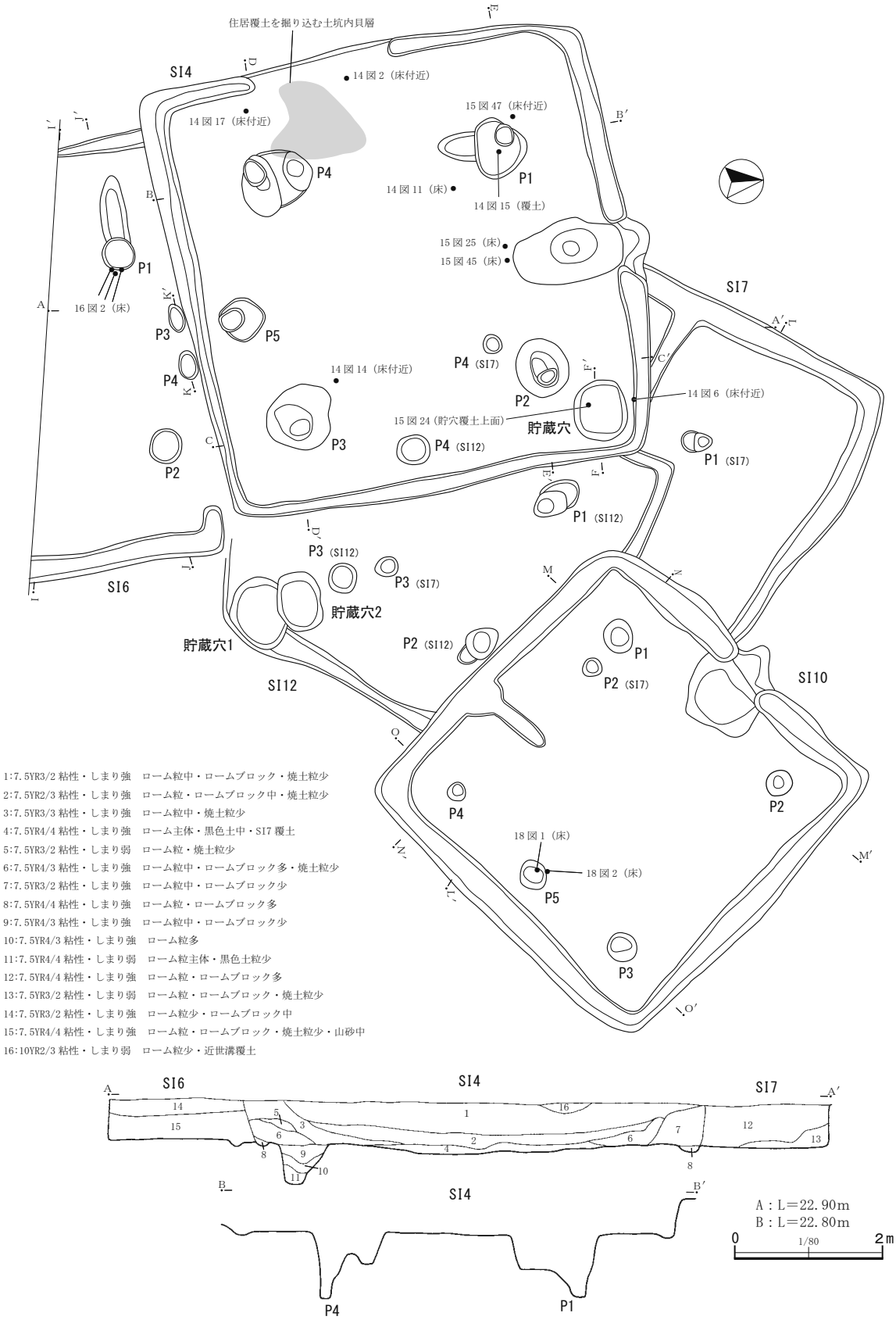
位置：３Ｆグリッド。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸〈5.22〉m、短軸〈1.32〉m、深さ0.80m。主軸Ｎ-31°-Ｗ。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は確認された範囲では全周し、深さ0.04mを測る。貯蔵穴が１基検出された。カマドは残存していなかった。カマド前庭部からは焼土及び掘り込みが検出されている。遺物：覆土中から古墳時代後期の土師器・須恵器が出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期。

第９号竪穴住居跡（第４・５表、第20図）

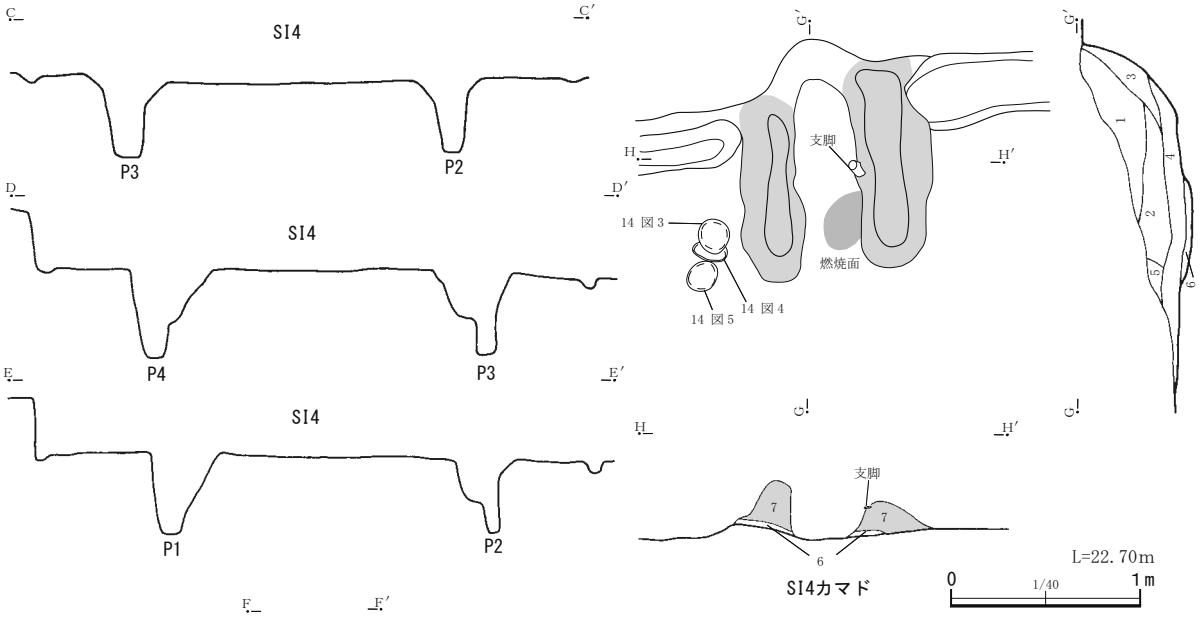
位置：３Ｅ・Ｆ・４Ｅ・Ｆグリッド。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸〈4.16〉m、短軸〈2.08〉m、深さ0.68m。主軸Ｎ-55°-Ｗ。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は確認された範囲では全周し、深さ0.07mを測る。カマドはほぼ残存せず、構築材が周辺から検出されたのみである。遺物：覆土中から古墳時代後期の土師器・須恵器が出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期。

第10号竪穴住居跡（第４・５表、第10～12・18図）

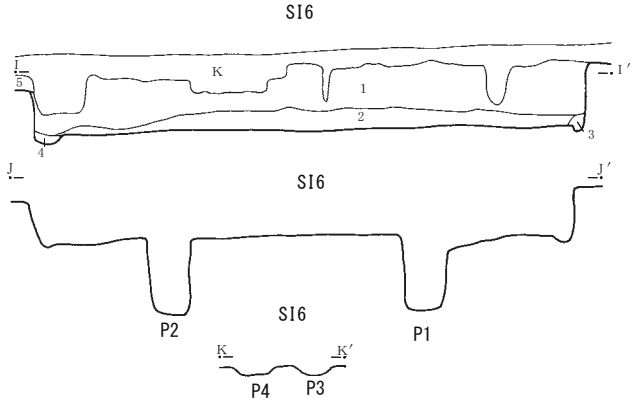
位置：１Ｅ・Ｆ・２Ｅ・Ｆ・３Ｅ・Ｆグリッド。重複関係：第７・12号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：方形。規模：長軸5.24m、短軸5.08m、深さ0.52m。主軸Ｎ-54°-Ｗ。



第 10 図　第４・６・７・10・12 号竪穴住居跡

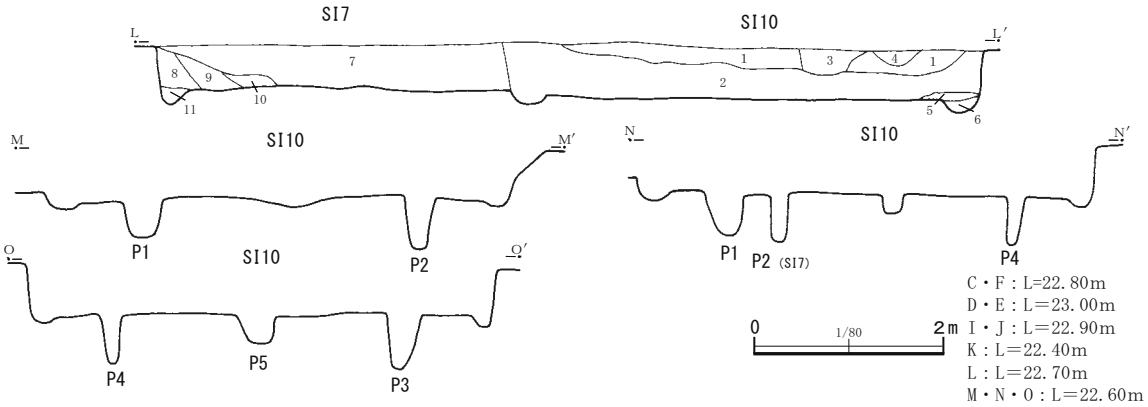


1:7.5YR4/4 粘性・しまり強　山砂多・焼土粒中・天井崩落土
2:7.5YR4/4 粘性・しまり強　山砂・焼土粒中・天井崩落土
3:7.5YR4/4 粘性・しまり強　山砂少
4:7.5YR4/4 粘性・しまり強　山砂・焼土粒少
5:7.5YR4/4 粘性・しまり強　山砂・焼土粒少・住居覆土
6:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
7:7.5YR7/1 粘性・しまり強　山砂・カマドソデ



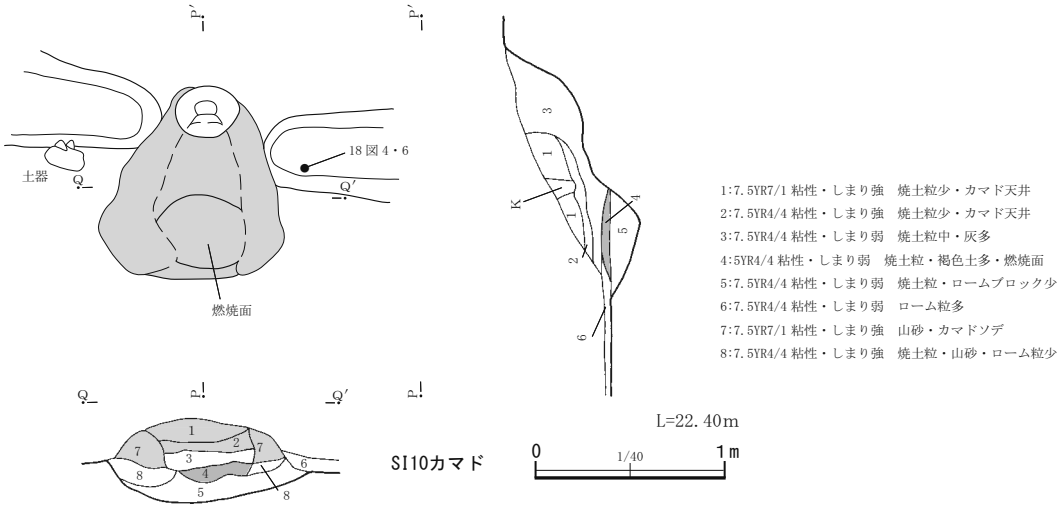
SI6
1:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多・焼土粒少
2:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック少
3:7.5YR3/3 粘性・しまり弱　ローム粒少
4:7.5YR3/3 粘性・しまり弱　ローム粒多
5:7.5YR3/3 粘性・しまり弱　ローム粒・ロームブロック多

SI7・10
1:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・焼土粒少
2:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック・焼土粒多
3:7.5YR3/2 粘性・しまり弱　ローム粒中
4:7.5YR3/2 粘性・しまり弱　ローム粒少・近世溝覆土
5:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック少・焼土粒多
6:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
7:7.5YR4/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
8:7.5YR4/3 粘性・しまり弱　ローム粒中
9:7.5YR4/3 粘性・しまり強　ローム粒中・ロームブロック少
10:7.5YR4/3 粘性・しまり強　ローム粒中・ロームブロック少・焼土粒多
11:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム主体

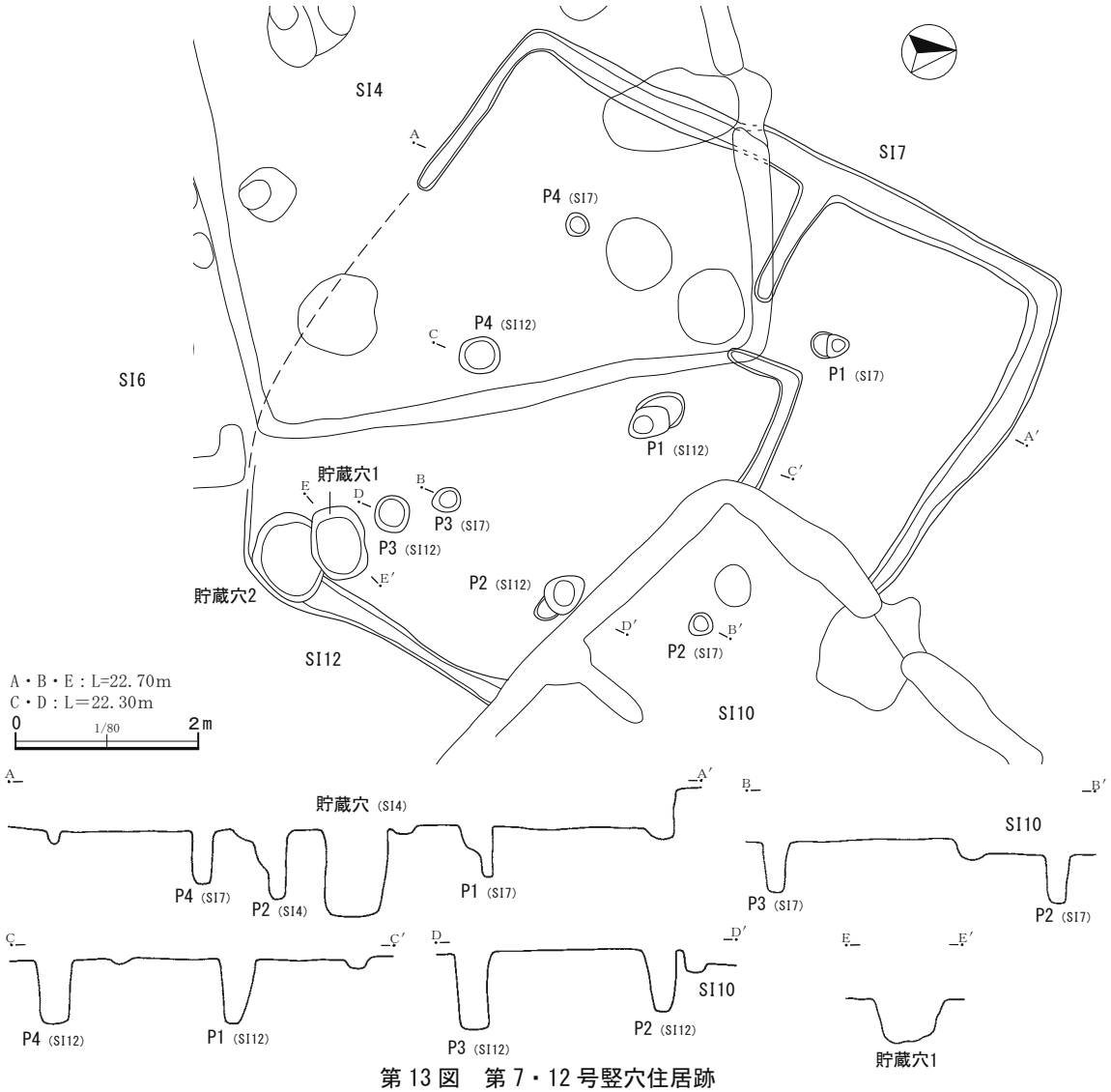


C・F：L=22.80m
D・E：L=23.00m
I・J：L=22.90m
K：L=22.40m
L：L=22.70m
M・N・O：L=22.60m

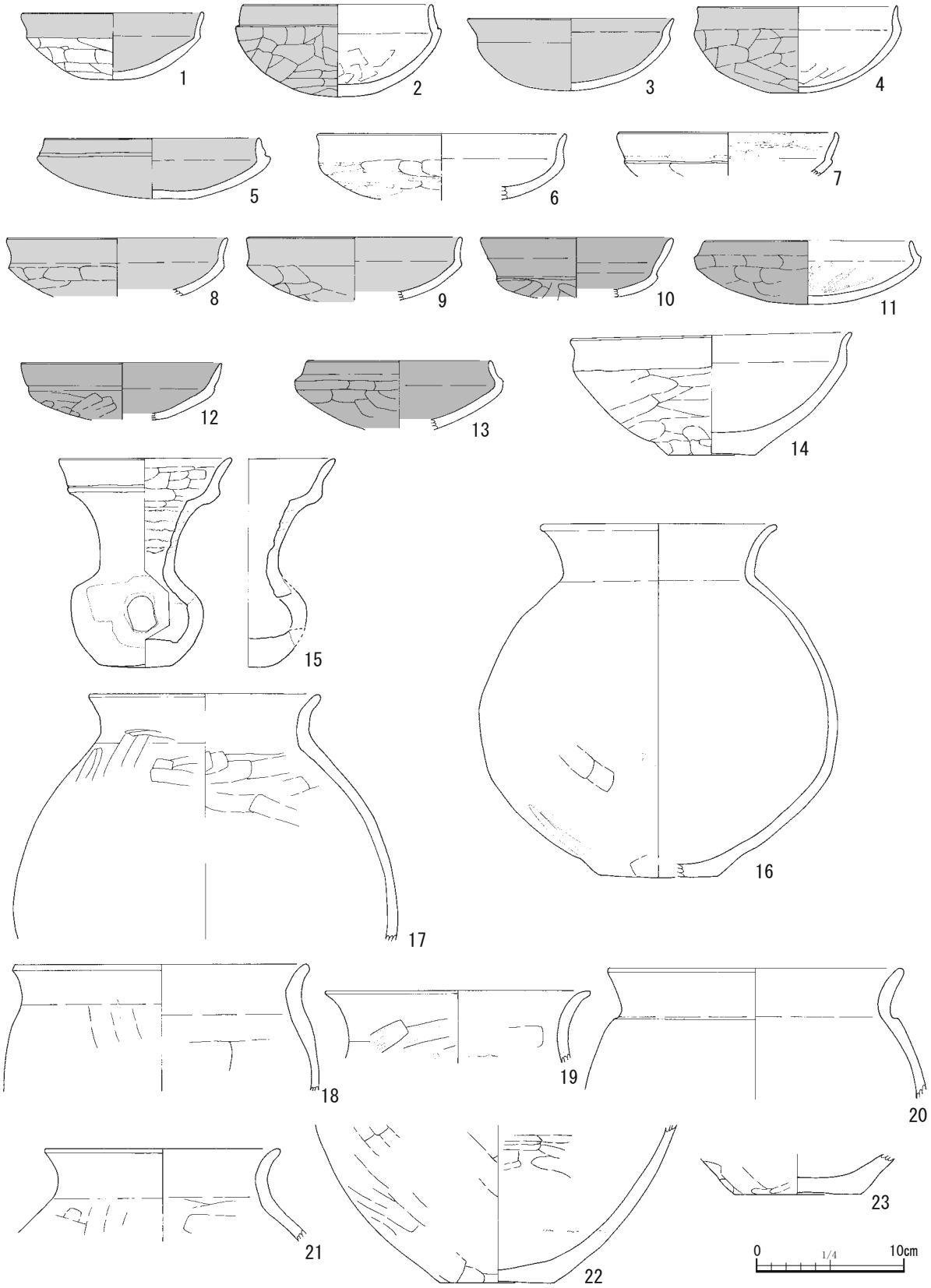
第 11 図　第４・６・７・10 号竪穴住居跡



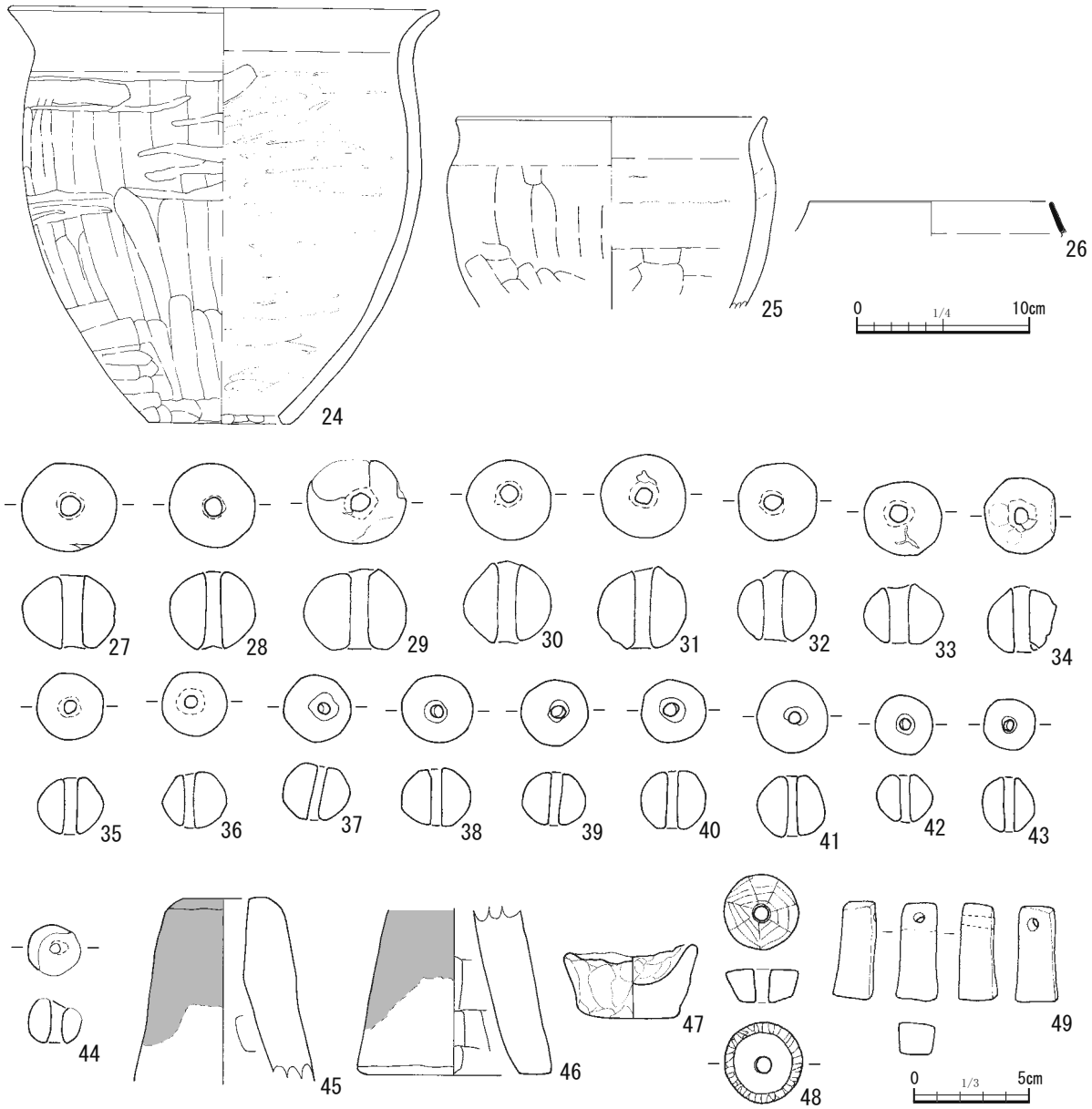
第 12 図　第 10 号竪穴住居跡



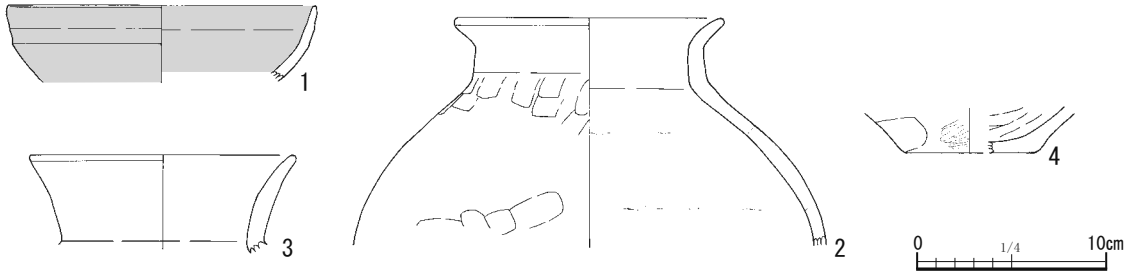
第 13 図　第 7・12 号竪穴住居跡



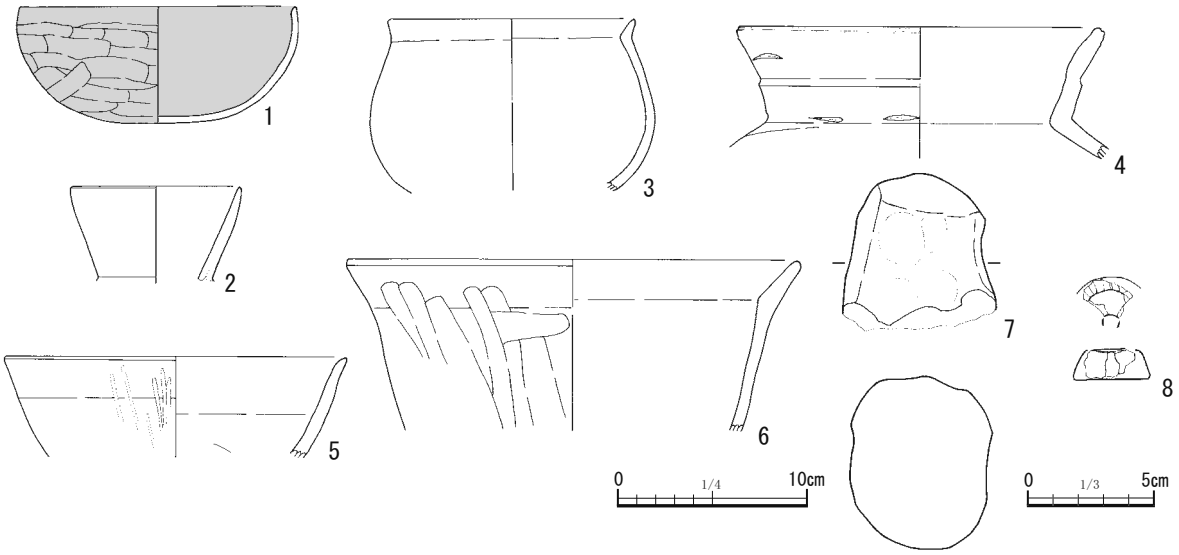
第 14 図　第４号竪穴住居跡（１）



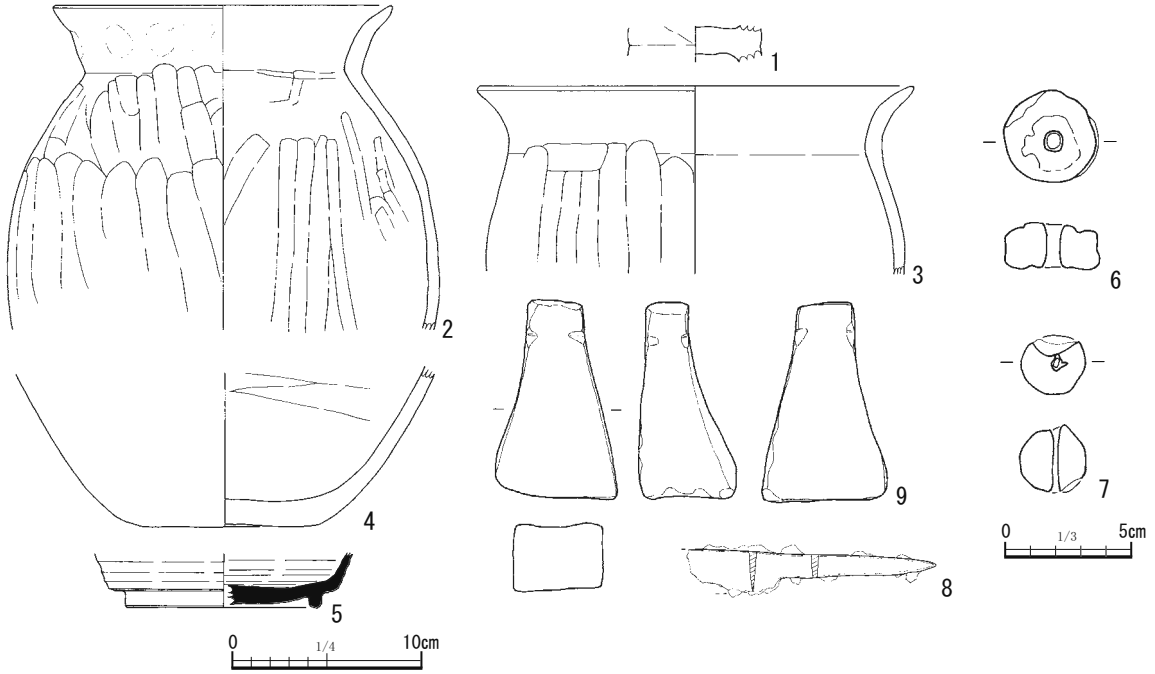
第 15 図　第４号竪穴住居跡（２）



第 16 図　第６号竪穴住居跡



第 17 図　第 7 号竪穴住居跡

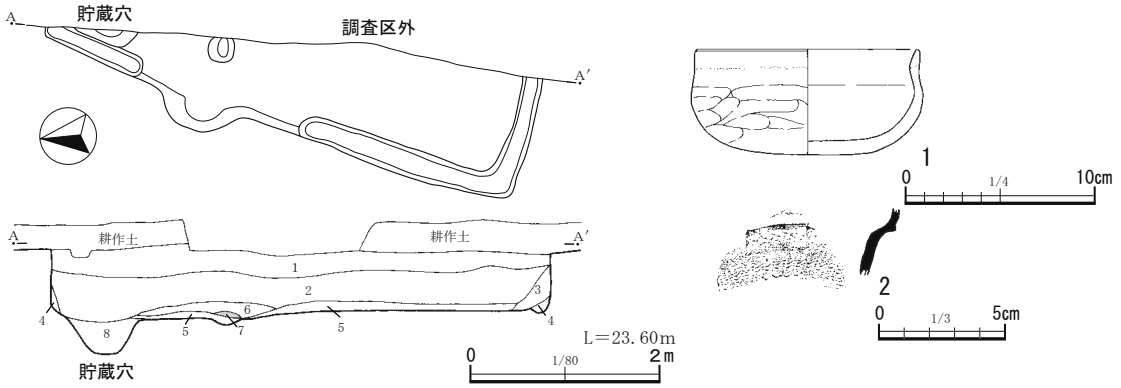


第 18 図　第 10 号竪穴住居跡

構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は全周し、深さ0.08mを測る。間仕切り溝１条、ピット５基、カマドが検出された。遺物：覆土及びカマド周辺の床面近くから平安時代の土師器・須恵器・土製品・鉄製品・石製品が出土している。時期：出土遺物から８世紀末～９世紀初頭。

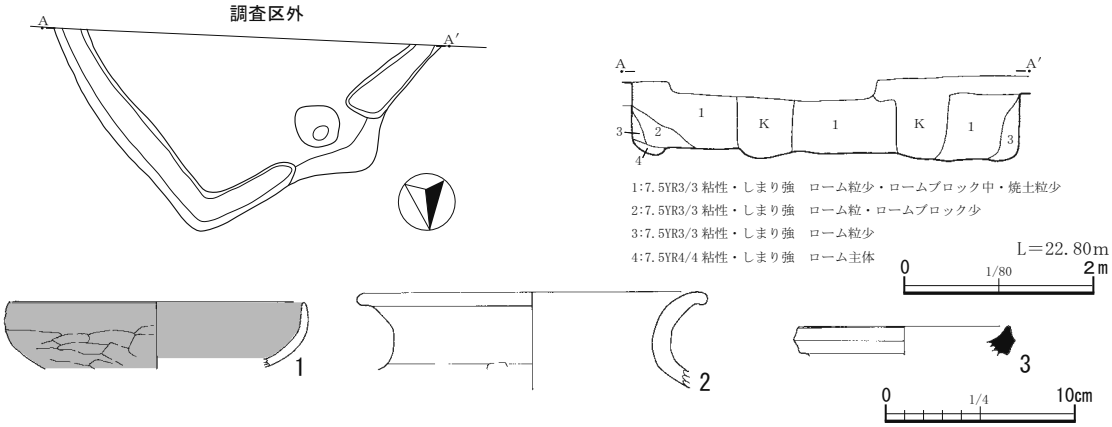
第11号竪穴住居跡（第４・５表、第21図）

位置：１Ｂ・Ｃグリッド。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸〈6.72〉m、短軸〈1.28〉m、深さ0.76m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。壁溝は検出されず、ピットが１基検出された。遺物：覆土中から古墳時代中期の土師器が出土している。時期：出土遺物から古墳時代中期。



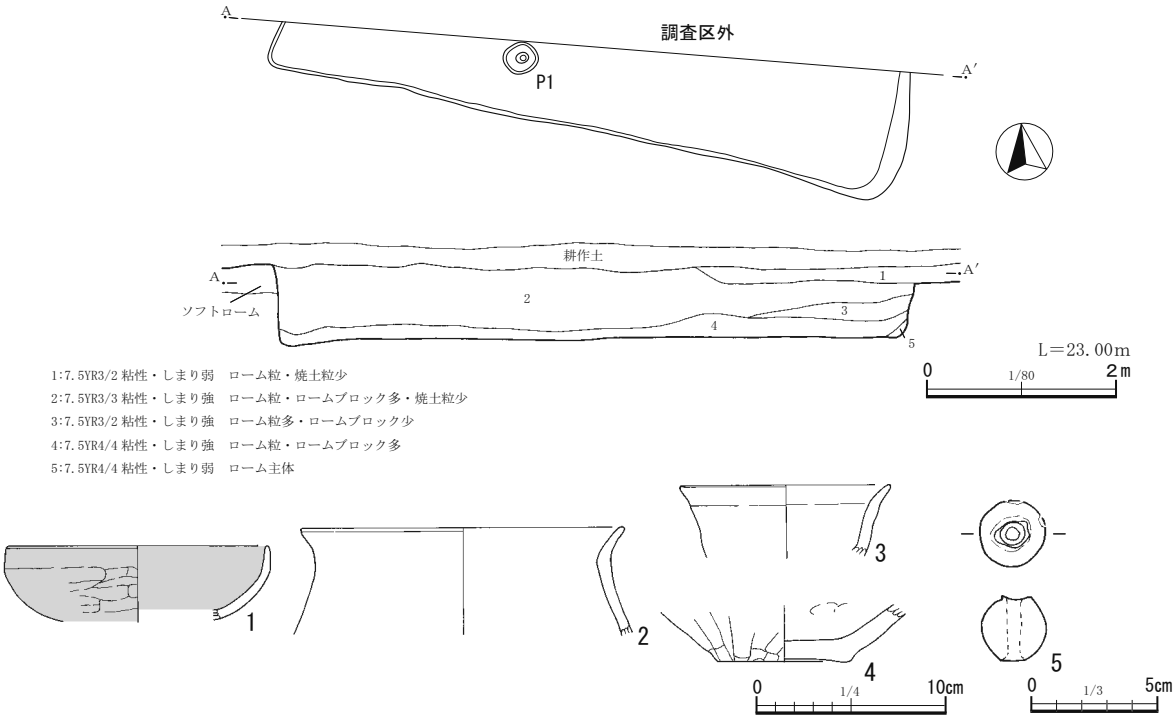
1:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック少
2:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
3:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒少
4:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム主体
5:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒少・ロームブロック中
6:7.5YR3/2 粘性・しまり強　ローム粒・焼土粒少・カマド由来
7:5YR4/4 粘性・しまり強　焼土粒多・カマド由来
8:7.5YR3/3 粘性・しまり弱　ローム粒多

第 19 図　第８号竪穴住居跡



1:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒少・ロームブロック中・焼土粒少
2:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック少
3:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒少
4:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム主体

第 20 図　第９号竪穴住居跡



1:7.5YR3/2 粘性・しまり弱　ローム粒・焼土粒少
2:7.5YR3/3 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多・焼土粒少
3:7.5YR3/2 粘性・しまり強　ローム粒多・ロームブロック少
4:7.5YR4/4 粘性・しまり強　ローム粒・ロームブロック多
5:7.5YR4/4 粘性・しまり弱　ローム主体

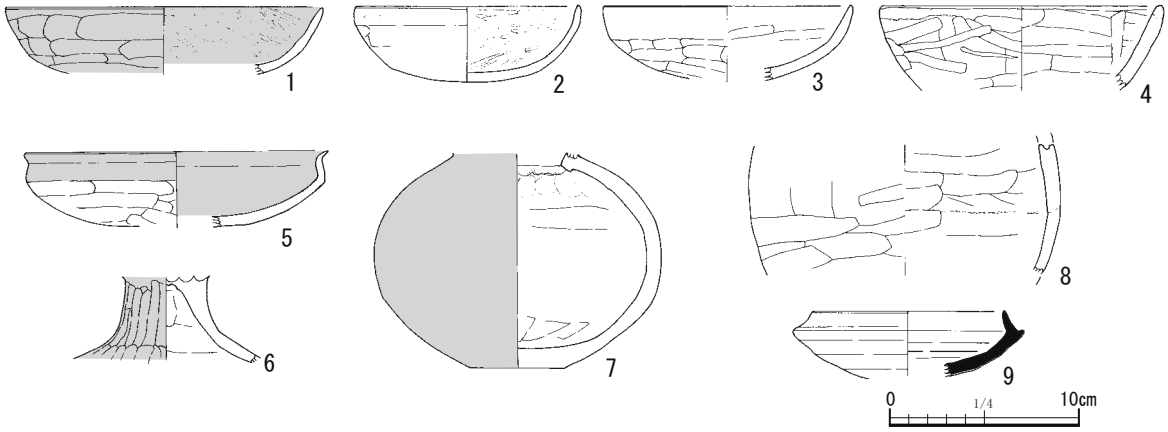
第 21 図　第 11 号竪穴住居跡

第12号竪穴住居跡（第５表、第10・13図）

位置：２Ｄ・Ｅ・３Ｄ・Ｅグリッド。重複関係：第４・７・10号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も古い。平面形態：方形。規模：長軸〈4.68〉m、短軸〈3.84〉m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は検出されなかった。壁溝は確認された範囲では全周し、深さ0.08mを測る。ピットが４基、貯蔵穴が１基検出され、貯蔵穴１が本遺構に伴うものと考えられる。遺物：確実に本遺構に伴うものは検出されなかった。時期：平面形態から古墳時代中期。

（３）遺構外出土遺物（第５表、第22図）

各遺構の覆土からも古墳時代の遺物が出土し、古墳時代中期・後期の土師器・須恵器でほぼ占められる。第４号竪穴住居跡出土の古墳時代中期の遺物は本来第７・12号竪穴住居跡に伴う可能性が高い。遺物の総数は集計表（第５表）に示した。



第 22 図　古墳時代遺構外出土遺物

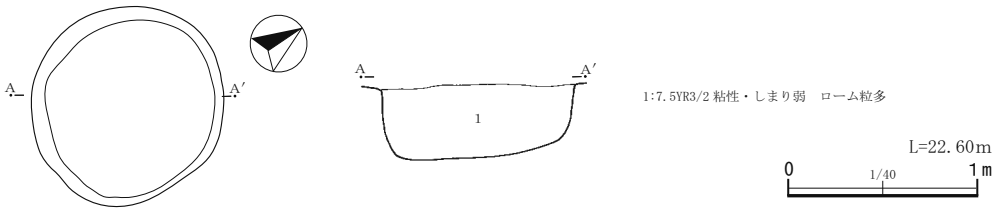
３　時期不明（第23図）

（１）概要

時期不明の土坑が１基検出されている。

（２）第１号土坑（第23図）

位置：１Ｅ・２Ｅグリッド。重複関係：第10号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。平面形態：円形。規模：長軸1.05m、短軸1.02m、深さ0.37m。構造：緩やかな皿状。遺物：覆土中から古墳時代後期の土師器が出土している。時期：平面形態及び覆土から中・近世の可能性が高い。



第 23 図　第１号土坑

第２表　出土遺物観察表（１）

縄文時代遺構外

1：**縄文土器・深鉢。**器高〈3.9〉。口縁部片。内面ナデ。外面条痕文。石英・白色粒中量。繊維含む。早期後葉条痕文系。2と同一個体と考えられる。内外面5YR4/4。調査区出土。2：**縄文土器・深鉢。**器高〈6.0〉。胴部片。内面ナデ。外面条痕文。石英・白色粒中量。繊維含む。早期後葉条痕文系。1と同一個体と考えられる。内外面5YR4/4。調査区出土。3：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.9〉。胴部片。内面ナデ。外面原体単節LRを施文後、3条1組の櫛歯状工具で鋸歯文を描出する。石英微量。繊維含む。前期前葉関山式。内外面10YR6/6。SI10出土。4：**縄文土器・深鉢。**器高〈2.6〉。胴部片。内面ナデ。外面原体単節RLを施文後、半裁竹管によるコンパス文。礫・石英・白色粒微量。繊維含む。前期前葉関山式。内外面10YR6/6。SI10出土。5：**縄文土器・深鉢。**器高〈8.4〉。胴部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面原体0段多条RL・LRを施文。石英・白色粒微量。繊維含む。前期前葉～中葉。内外面10YR6/6。SI10出土。6：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.1〉。胴部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面原体附加条1種（RL・LR）を施文。礫微量、石英・白色粒中量。繊維含む。前期前葉～中葉。内外面10YR6/6。SI8出土。7：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.7〉。胴部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面原体単節LRを施文。石英・白色粒微量。繊維含む。前期前葉～中葉。内外面10YR6/6。SI10出土。8：**縄文土器・深鉢。**底径（6.6）器高〈3.4〉。底部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面原体0段多条RLを施文。底部にも縄文を施文後ナデ。石英・白色粒少量。繊維含む。前期前葉～中葉。内外面7.5YR4/4。SI7出土。9：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.6〉。口縁部片。内面ヘラミガキ。外面隆帯で楕円文を施し、楕円文内に原体単節LRを施す。加曽利EⅡ～Ⅲ式。礫微量、石英・白色粒中量。内外面7.5YR5/2。SI4出土。10：**縄文土器・深鉢。**器高〈5.2〉。胴部片。内面ヘラミガキ。外面磨消縄文（原体単節LR）。加曽利EⅡ～Ⅲ式。石英・白色粒少量。内外面10YR6/3。SI2出土。11：**縄文土器・深鉢。**器高〈9.7〉。胴部片。内面ミガキ。外面磨消縄文（原体無節L）。加曽利EⅡ～Ⅲ式。石英・白色粒中量。外面7.5YR5/6・内面7.5YR5/4。SI4出土。12：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.0〉。胴部片。内面ナデ。外面磨消縄文（原体単節RL）。加曽利EⅡ～Ⅲ式。石英・白色粒少量。内外面10YR6/4。SI7出土。13：**石器・石鏃。**長さ〈3.7〉・幅1.3・厚さ0.4・重量1.7g。ほぼ完形。先端部欠損。両面に調整が施される。SI4出土。

縄文時代出土遺物（確認調査）

1：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.2〉。胴部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面原体単節LRを施文後、2条1組の櫛歯状工具で鋸歯文及び斜状の文様を描出する。石英・白色粒少量。繊維含む。前期前葉関山式。外面7.5YR6/4・内面10YR6/2。2：**縄文土器・深鉢。**器高〈9.3〉。口縁部片。内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。外面口唇直下に沈線を施す。下部は原体無節Lを施文後、沈線で文様を描出する。加曽利EⅡ～Ⅲ式。白色粒中量、石英多量。内外面10YR3/1。3：**縄文土器・深鉢。**器高〈3.9〉。口縁部片。内面ヘラミガキ。外面口唇直下に沈線を施し、下部は原体単節RLを施文。下部に沈線が確認される。加曽利EⅡ～Ⅲ式。石英・白色粒中量。外面10YR4/1・内面7.5YR5/4。4：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.0〉。口縁部片。内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。外面沈線で文様を描出。沈線内に縄文が確認される。加曽利EⅡ～Ⅲ式。石英・白色粒中量。外面10YR6/2・内面10YR5/1。5：**縄文土器・深鉢。**器高〈19.6〉。胴部片。内面ヘラミガキ。外面隆帯を沿わせた沈線で楕円文を描出。楕円文内には原体無節Lが施文され、胴部は原体無節Rが施される。加曽利EⅡ～Ⅲ式。礫少量、石英・白色粒中量。内外面7.5YR6/4。6：**縄文土器・深鉢。**器高〈4.6〉。胴部片。内面ヘラケズリ。外面磨消縄文（原体単節LR）。加曽利EⅡ～Ⅲ式。礫少量、石英・白色粒中量。外面5YR4/6・内面10YR2/1。7：**縄文土器・鉢。**器高〈9.5〉。口縁部片。内外面ヘラミガキ。外面下部に隆帯を貼り付ける。加曽利EⅡ～Ⅲ式。石英・白色粒中量。外面7.5YR5/4・内面7.5YR5/3。

SI1

1：**土師器・坏。**口径（14.6）・器高〈3.6〉。口縁部～体部片。内面ナデの後放射状のヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ、下部はヘラケズリ後ナデ。石英・白色粒少量。内外面7.5YR3/3。焼成良好。2：**土師器・坏。**口径（13.0）・器高〈2.5〉。口縁部～体部片。内外面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。内面にヘラ状工具の痕跡残る。石英・白色粒微量。内外面7.5YR4/2。焼成良好。3：**土師器・甕。**口径（14.8）・器高〈4.5〉。口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ。内面に輪積み痕残る。白色粒少量、石英中量。外面7.5YR4/2・内面7.5YR5/2。焼成良好。4：**土師器・甕。**底径（8.0）・器高〈7.0〉。胴部下半～底部1/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ。礫・白色粒少量、石英中量。外面7.5YR4/2・内面7.5YR5/2。焼成良好。

SI2

1：**土師器・坏。**口径（11.8）・器高〈4.5〉。口縁部～体部片。内外面ロクロナデ。内面下端ミガキ、外面下端手持ちヘラケズリ。石英・白色粒少量。外面7.5YR5/4・内面7.5YR5/3。焼成良好。2：**土師器・甕。**口径（17.9）・器高〈11.7〉。口縁部～胴部上半1/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面に指頭痕、外面に工具痕残る。石英・白色粒少量。外面5YR5/6・内面7.5YR6/6。焼成良好。3：**土師器・甕。**口径（19.8）・器高〈9.5〉。口縁部～胴部上半1/8残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。白色粒少量、石英中量。外面10YR4/2・内面7.5YR5/3。焼成良好。4：**土師器・甕。**底径6.2・器高〈6.2〉。胴部下半～底部1/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。外面に炭化物付着。白色粒少量、石英中量。外面10YR4/2・内面7.5YR5/3。焼成良好。5：**須恵器・坏。**口径（12.8）・底径7.4・器高3.9。2/3残存。内外面ロクロナデ。底部回転糸切。礫微量、白色粒中量。内外面5Y5/1。焼成良好。6：**須恵器・坏。**口径（13.0）・底径7.0・器高3.7。1/3残存。内外面ロクロナデ。底部回転糸切。底部に煤付着。礫微量、白色粒中量。内外面5Y6/1。焼成良好。7：**須恵器・坏。**口径（12.8）・底径（8.2）・器高3.6。1/5残存。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。礫微量、白色粒中量。内外面2.5Y6/1。焼成良好。8：**須恵器・坏。**口径(13.8)・器高〈4.2〉。1/6残存。内外面ロクロナデ。外面下端手持ちヘラケズリ。口唇部に輪積み痕が残る。礫・白色粒・雲母中量。内外面2.5Y6/1。焼成良好。9：**須恵器・坏蓋。**口径(14.8)・器高3.3。4/5残存。内外面ロクロナデ。外面上部回転ヘラケズリ。火襷及び意図的な打ち欠き。礫・白色粒・雲母中量。内外面2.5Y6/2。焼成良好。10：**土製品・土玉。**長さ3.9・幅3.9・厚さ2.8・孔径0.8・重量32.4g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。7.5YR5/4。焼成良好。11：**鉄製品・刀子。**長さ〈6.1〉・幅1.7・厚さ0.3・重量7.2g。1/3残存。刀子の茎片。12：**鉄製品・刀子。**長さ〈7.9〉・幅1.2～1.4・厚さ0.5・重量11.5g。1/3残存。刀子の茎～刃部片。錆のためか、中が中空になる。13：**鉄製品・鉄鏃。**長さ〈4.6〉・幅0.3～0.9・厚さ0.3・重量4.4g。刃部片。14：**鉄製品・鉄鏃。**長さ〈7.6〉・幅0.6～〈3.5〉・厚さ0.5・重量15.8g。1/2残存。

SI3

1：**土師器・坏。**口径（14.6）・底径4.8・器高6.4。1/3残存。内面ナデの後放射状のヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデ、下部はヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内外面赤彩。礫・白色粒少量、石英中量。内外面5YR6/6。焼成良好。2：**土師器・坏。**口径（13.8）・器高〈4.3〉。1/5残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ、下部はヘラケズリ後ナデ。礫・白色粒少量、石英中量。外面5YR5/4・内面5YR4/4。3：**土師器・甕。**口径18.2・器高〈24.2〉。4/5残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。頸部外面に工具痕が残り、内面に輪積み痕残る。外面下端に炭化物付着。礫少量、白色粒中量、石英多量。内外面10YR6/4。焼成良好。4：**土師器・甕。**器高〈18.7〉。2/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面工具によるヨコナデ。外面上部は刷毛状工具による調整後ナデ及びミガキ。下部はヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内面に輪積み痕残る。石英少量、礫・白色粒中量。内外面5YR5/4。焼成良好。5：**土師器・甕。**口径18.2・器高〈17.3〉。1/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。礫・白色粒少量、石英中量。外面5YR5/4・内面10YR5/3。焼成良好。6：**土師器・甕。**口径18.4・器高〈23.2〉。1/4残存。内面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。内面に輪積み痕残る。礫・石英・白色粒少量。外面10YR3/2・内面5YR4/6。焼成良好。7：**土師器・甕。**口径16.6・器高〈14.2〉。1/5残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。礫・石英・白色粒微量。内外面5YR5/4。焼成良好。8：**土師器・甕。**底径8.0・器高〈3.3〉。底部残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ、底部ヘラケズリ後ナデ。石英少量、礫・白色粒中量。外面7.5YR4/3・内面7.5YR5/3。焼成良好。9：**須恵器・坏。**口径（10.0）・器高〈1.8〉。口縁部片。内外面ロクロナデ。白色粒微量。内外面5Y6/2。焼成良好。10：**須恵器・甕。**器高〈2.0〉。頸部片。内外面ロクロナデ。外面櫛描波状文が2段施される。石英・白色粒微量。外面N4/・内面5Y4/1。焼成良好。11：**石製品・砥石。**長さ6.3・幅4.6・厚さ2.5・重量103.0g。完形。中央部の変形が進み破損したもの。錆の付着が顕著で、一部に刀傷痕が確認される。

SI4

1：**土師器・坏。**口径（12.4）・器高4.5。2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面赤彩。石英・白色粒少量。外面10YR5/3・

第３表　出土遺物観察表（２）

内面 2.5YR4/6。焼成良好。**2:土師器・坏。**口径 12.8・器高 6.2。完形。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。外面赤彩。口縁部摩耗。礫少量、石英・白色粒中量。外面 7.5YR5/3・内面 7.5YR5/4。焼成良好。**3：土師器・坏。**口径 14.0・器高 4.8。ほぼ完形。内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。内外面赤彩。口縁部摩耗。石英・白色粒少量。外面 2.5YR3/6・内面 2.5YR4/8。焼成良好。**4:土師器・坏。**口径 13.4・器高 5.8。ほぼ完形。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面赤彩。口縁部摩耗。礫微量、石英・白色粒中量。外面 5YR6/4・内面 7.5YR6/4。焼成良好。**5：土師器・坏。**口径 14.4・器高 4.1。ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。口縁部摩耗。石英・白色粒中量。外面 5YR4/4・内面 2.5YR4/6。焼成良好。**6：土師器・坏。**口径（16.6）・器高〈4.4〉。1/3 残存。内面ナデおよびミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びヘラミガキ。礫微量、石英・白色粒中量。内外面 7.5YR4/1。焼成良好。**7：土師器・坏。**口径（14.6）・器高〈2.9〉。1/5 残存。内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ及びヘラミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。石英・白色粒少量。外面 10YR5/3・内面 10YR5/2。焼成良好。**8：土師器・坏。**口径（14.8）・器高〈3.9〉。1/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。礫・白色粒少量、石英中量。外面 7.5YR6/4・内面 5YR6/4。焼成良好。**9：土師器・坏。**口径（14.6）・器高〈4.2〉。1/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。石英・白色粒少量。外面 7.5YR5/3・内面 2.5YR4/6。焼成良好。**10：土師器・坏。**口径（12.8）・器高〈4.0〉。1/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。内外面黒彩。礫・白色粒微量、石英中量。内外面 7.5YR3/1。焼成良好。**11：土師器・坏。**口径（14.0）・器高 4.3。1/3 残存。内面放射状のヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面黒彩。赤褐色粒・石英・白色粒少量。外面 10YR5/2・内面 10YR6/4。焼成良好。**12：土師器・坏。**口径（13.4）・器高〈3.8〉。1/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面黒彩。赤褐色粒・石英・白色粒少量。外面 10YR6/3・内面 10YR7/3。焼成良好。**13：土師器・坏。**口径（12.6）・器高〈4.6〉。1/4 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面黒彩。赤褐色粒・石英・白色粒少量。外面 10YR5/2・内面 10YR6/3。焼成良好。**14：土師器・鉢。**口径 19.0・底径 6.0・器高 8.3。2/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。底部ヘラケズリ。赤褐色粒微量、石英・白色粒中量。外面 10YR6/3・内面 7.5YR6/6。焼成良好。**15：土師器・ハソウ。**口径 11.6・底径 5.0・器高 14.2。ほぼ完形。体部内面ナデ、頚部内面ヘラケズリ、口縁部内面ヘラケズリ後ミガキ。外面ヘラケズリ後丁寧なミガキ。孔部周辺は剥落する。口縁部に一条の沈線が施され、部分的に二条になる。頚部内面に輪積み痕が残る。全体的に摩耗。須恵器模倣。石英・白色粒少量。内外面 7.5YR4/3。焼成良好。**16：土師器・甕。**口径 15.8・底径 8.0・器高 23.9。2/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリの後ナデおよびミガキ。礫少量、石英多量。内外面 7.5YR7/3。焼成良好。**17：土師器・甕。**口径 15.6・器高〈16.6〉。1/3 残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。礫微量、石英・白色粒少量。外面 7.5YR4/4・内面 7.5YR4/2。焼成良好。**18：土師器・甕。**口径（19.7）・器高〈8.5〉。口縁部～胴部上半 1/3 残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリの後ナデ及びミガキ。礫少量、石英・白色粒多量。外面 7.5YR4/2・内面 5YR4/6。焼成良好。**19：土師器・甕。**口径（17.7）・器高〈4.9〉。口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。一部ハケ状工具による調整及びヘラナデ。外面ヘラミガキ。内面に輪積み痕が残る。石英・白色粒少量。内外面 7.5YR6/4。焼成良好。**20：土師器・甕。**口径（19.6）・器高〈8.9〉。口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。礫微量、石英・白色粒中量。外面 7.5YR3/1・内面 7.5YR5/3。焼成良好。**21:土師器・甕。**口径(15.8)・器高〈7.2〉。口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。石英・白色粒多量。外面 5YR5/4・内面 7.5YR4/2。焼成良好。**22：土師器・甕。**底径 7.6・器高〈10.7〉。胴部下半～底部 3/4 残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面に輪積み痕が残る。外面上半に炭化物付着。石英・白色粒少量。外面 7.5YR4/2・内面 10YR7/3。焼成良好。**23：土師器・甕。**底径 8.6・器高〈2.7〉。底部残存。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面大部分剥落。礫・石英中量、白色粒多量。外面 7.5YR4/6・内面 7.5YR6/3。焼成良好。**24：土師器・甑。**口径 24.9・底径 8.2・器高 23.9。ほぼ完形。内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリの後ナデ及びミガキ。海面骨針・礫微量、石英・白色粒少量。内外面 7.5YR6/6。焼成良好。**25：土師器・甑。**口径(17.7)・器高〈11.0〉。口縁部～胴部上半 1/5 残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリの後ナデ。内面に輪積み痕が残る。礫・白色粒少量、石英中量。内外面 10YR6/3。焼成良好。**26：須恵器・坏。**口径（14.0）・器高〈2.0〉。口縁部片。内外面ロクロナデ。白色粒少量。内外面 N4/。焼成良好。**27：土製品・土玉。**長さ 3.8・幅 4.0・厚さ 3.1・孔径 0.9・重量 37.4g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。7.5YR5/4。焼成良好。**28：土製品・土玉。**長さ 3.6・幅 3.6・厚さ 3.4・孔径 0.8・重量 33.5g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。10YR6/3。焼成良好。**29：土製品・土玉。**長さ 3.7・幅 4.3・厚さ 3.5・孔径 0.9・重量 50.4g。一部欠損。ナデ調整。赤褐色粒・石英・白色粒少量。7.5YR5/3。焼成良好。**30：土製品・土玉。**長さ 3.5・幅 3.7・厚さ 3.4・孔径 0.8・重量 32.0g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。5YR6/6。焼成良好。**31：土製品・土玉。**長さ 3.6・幅 3.7・厚さ 3.6・孔径 0.7・重量 31.7g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。10YR6/3。焼成良好。**32：土製品・土玉。**長さ 3.5・幅 3.5・厚さ 2.9・孔径 0.8・重量 27.4g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。10YR4/1。焼成良好。**33：土製品・土玉。**長さ 3.2・幅 3.4・厚さ 2.6・孔径 0.8・重量 23.4g。完形。ナデ調整。石英・白色粒微量。10YR7/4。焼成良好。**34：土製品・土玉。**長さ 3.3・幅 3.0・厚さ 2.8・孔径 0.7・重量 26.8g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。5YR5/4。焼成良好。**35：土製品・土玉。**長さ 2.9・幅 2.8・厚さ 2.4・孔径 0.5・重量 19.2g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。5YR5/4。焼成良好。**36：土製品・土玉。**長さ 2.8・幅 2.8・厚さ 2.4・孔径 0.6・重量 17.6g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。5YR4/4。焼成良好。**37：土製品・土玉。**長さ 2.9・幅 2.9・厚さ 2.5・孔径 0.5・重量 18.8g。完形。ナデ調整。孔部周辺はヘラケズリ。石英・白色粒少量。5YR5/6。焼成良好。**38：土製品・土玉。**長さ 2.9・幅 3.0・厚さ 2.5・孔径 0.5・重量 20.1g。完形。ナデ調整。孔部周辺はヘラケズリ。石英・白色粒少量。5YR5/6。焼成良好。**39：土製品・土玉。**長さ 2.9・幅 2.9・厚さ 2.3・孔径 0.6・重量 17.1g。完形。ナデ調整。孔部周辺はヘラケズリ。石英・白色粒少量。5YR5/4。焼成良好。**40：土製品・土玉。**長さ 2.7・幅 2.8・厚さ 2.5・孔径 0.5・重量 16.6g。完形。ナデ調整。孔部周辺はヘラケズリ。石英・白色粒少量。5YR4/6。焼成良好。**41：土製品・土玉。**長さ 3.2・幅 3.1・厚さ 2.6・孔径 0.5・重量 21.9g。完形。ナデ調整。孔部周辺はヘラケズリ。石英・白色粒少量。5YR5/6。焼成良好。**42：土製品・土玉。**長さ 2.6・幅 2.5・厚さ 2.1・孔径 0.5・重量 12.4g。完形。ナデ調整。孔部周辺はヘラケズリ。石英・白色粒少量。5YR5/6。焼成良好。**43:土製品・土玉。**長さ 2.2・幅 2.2・厚さ 2.4・孔径 0.4・重量 11.3g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。10YR3/1。焼成良好。**44：土製品・土玉。**長さ 2.2・幅 2.2・厚さ〈1.9〉・孔径 0.4・重量 6.8g。2/3 残存。ナデ調整。石英・白色粒少量。5YR4/6。焼成良好。**45：土製品・羽口。**口径（5.0）・器高〈8.0〉・孔径 2.1。1/2 残存。内面ヘラケズリ後ナデ。外面ナデ。外面上半は被熱し発泡する。白色粒中量。内外面 5YR5/6。焼成良好。**46：土製品・羽口。**底径（8.0）・器高〈7.1〉・底部内径（5.6）。1/3 残存。内面ヘラケズリ。外面ナデ。外面上半は被熱し発泡する。白色粒中量。内外面 5YR5/6。焼成良好。**47：土製品・手捏ね。**口径 5.8・底径 3.2・器高 3.2。完形。内外面指頭によるナデ。石英・白色粒多量。内外面 7.5YR6/6。焼成良好。**48：石製品・紡錘車。**長さ 3.5・幅 3.3・厚さ 2.5・重量 21.0g。完形。表面に線刻により文様が施される。側面は金属器による加工痕が顕著に残る。裏面には擦痕が残る。**49：石製品・砥石。**長さ 4.3・幅 1.7・厚さ 1.4・重量 19.8g。完形。小型方柱状の提砥。上端に垂下用の孔が空けられる。

SI5

1：土師器・坏。口径（16.0）・器高〈4.1〉。口縁部片。内面ナデ。口縁部外面ナデ、下部はヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。礫・石英微量、白色粒中量。内外面 2.5YR3/6。焼成良好。**2：土師器・甕。**口径 13.6・底径 6.4・器高 19.5。完形。内面剥落の為不明。頚部ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部ヘラケズリ。白色粒・石英少量。内外面 7.5YR6/4。焼成良好。**3：土師器・甕。**口径（15.6）・底径 6.4・器高 21.5。4/5 残存。内面ヘラナデ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部ヘラケズリ。内面に輪積み痕が残る。礫微量、石英・白色粒少量。外面 7.5YR5/4・内面 7.5YR5/3。焼成良好。**4：土師器・甕。**口径（14.0）・器高〈5.2〉。口縁部～胴部 1/8 残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。礫微量、白色粒少量、石英中量。内外面 5YR4/8。焼成良好。**5：土師器・甕。**口径（18.0）・器高〈5.2〉。口縁部～胴部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。白色粒微量、石英少量。外面 10YR3/2・内面 10YR5/2。焼成良好。**6：土師器・甕。**口径（11.6）・器高〈5.5〉。口縁部～胴部 1/4 残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面に輪積み痕が残る。赤褐色粒微量、石英少量、白色粒中量。外面 10YR3/1・内面 7.5YR5/3。焼成良好。**7：土師器・甕。**口径（12.0）・器高〈6.0〉。口縁部～胴部 1/5 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面に輪積み痕が残る。礫・白色粒少量、石英中量。外面 10YR5/2・内面 10YR6/4。焼成良好。**8：土師器・甕。**口径（18.4）・

第４表　出土遺物観察表（３）

器高〈8.3〉。口縁部～胴部 1/8 残存。口縁部内外面ヨコナデ。その他は剥落により調整不明。赤褐色粒・石英微量、礫中量。内外面 7.5YR5/4。焼成良好。**9：土師器・甑。**口径（17.2）・器高〈5.1〉。口縁部～胴部 1/8 残存。内面ヘラナデ。口縁部内面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。礫・石英・白色粒少量。内外面 7.5YR5/4。焼成良好。**10：鉄製品・鎹。**長さ 1.6・幅〈3.4〉・厚さ 0.5・重量 3.9g。2/3 残存。

SI6

1：土師器・坏。口径（16.0）・器高〈4.0〉。口縁部 1/5 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。礫・白色粒少量、石英中量。内外面 2.5YR5/6。焼成良好。**2：土師器・甕。**口径 14.2・器高 11.8。1/5 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面に輪積み痕が残る。礫微量、石英・白色粒中量。外面 7.5YR5/4・内面 5YR5/4。焼成良好。**3：土師器・甕。**口径(14.0)・器高〈5.1〉。口縁部片。内外面ヨコナデ。礫微量、石英・白色粒中量。5YR4/6。焼成良好。**4：土師器・甕。**底径（7.0）・器高〈2.4〉。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ヘラミガキ。石英・白色粒微量。外面 5YR4/6・内面 10YR5/2。焼成良好。

SI7

1：土師器・坏。口径（14.4）・器高 6.2。1/3 残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。石英・白色粒微量。内外面 2.5YR5/6。焼成良好。**2：土師器・直口壺。**口径（9.0）・器高〈4.9〉。口縁部 1/3 残存。内外面ヨコナデ。石英・白色粒微量。内外面 7.5YR6/4。焼成良好。**3：土師器・鉢。**口径（13.0）・器高〈9.0〉。1/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。白色粒微量、石英少量。外面 5YR4/4・内面 10YR3/2。焼成良好。**4：土師器・甕。**口径（19.0）・器高〈6.8〉。口縁部 1/5 残存。内面剥落。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。口唇部に１条の沈線。口縁部に１条突帯を巡らせる。工具による圧痕が残る。須恵器甕模倣。礫・石英・白色粒少量。外面 10YR6/3・内面 7.5YR6/3。焼成良好。**5：土師器・甑。**口径（18.0）・器高〈5.3〉。口縁部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラミガキ。赤褐色粒・礫微量、石英中量。外面 10YR4/1・内面 7.5YR6/4。焼成良好。**6：土師器・甑。**口径（23.6）・器高〈9.0〉。口縁部～胴部 1/6 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。白色粒微量、石英少量。外面 10YR3/2・内面 10YR5/3。焼成良好。**7：土製品・支脚。**長さ〈6.2〉・幅〈5.9〉・厚さ 6.8・重量 243.2g。1/3 残存。ナデ調整。礫・石英少量、白色粒多量。内外面 10YR5/3。焼成良好。**8：石製品・紡錘車。**長さ〈1.4〉・幅〈1.9〉・厚さ〈1.2〉・重量 4.6g。破片。側面及び上面に金属器による加工痕が残る。

SI8

1：土師器・坏。口径（11.6）・器高 5.5。1/2 残存。内面剥落の為不明。口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。礫微量、石英・白色粒少量。外面 7.5YR6/4・内面 7.5YR6/3。焼成良好。**2：須恵器・ハソウ。**器高〈2.6〉。頸部片。内外面共にロクロナデ。外面４条１単位の櫛描波状文が３段施される。内面上部に自然釉付着。精良。内外面 2.5Y6/1。焼成良好。

SI9

1：土師器・坏。口径(15.6)・器高〈3.5〉。口縁部～体部片。内面及び口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面黒彩。石英微量。外面 10YR5/3・内面 10YR3/2。焼成良好。**2：土師器・甕。**口径（18.4）・器高〈5.0〉。口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。石英・白色粒少量。外面 10YR5/3・内面 10YR6/3。焼成良好。**3：須恵器・壺・瓶類。**口径（11.2）・器高〈1.5〉。口縁部片。内外面共にロクロナデ。外面に自然釉付着。白色粒微量。内外面 2.5Y5/1。焼成良好。

SI10

1：土師器・台付甕。器高〈2.0〉。脚部残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。石英・白色粒中量。外面 10YR4/2・内面 5YR5/4。焼成良好。**2：土師器・甕。**口径（17.8）・器高〈17.2〉。口縁部～胴部 1/5 残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面に指頭痕残る。外面ヘラケズリ後ナデ。礫少量、石英・白色粒中量。外面 10YR5/3・内面 10YR4/1。焼成良好。**3：土師器・甕。**口径（22.8）・器高〈9.8〉。口縁部～胴部上半 1/3 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。礫微量、白色粒少量、石英中量。内外面 10YR4/3。焼成良好。**4：土師器・甕。**底径 8.4・器高〈8.3〉。胴部下半～底部 2/3 残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。白色粒少量、石英中量。外面 10YR5/4・内面 7.5YR6/4。焼成良好。**5：須恵器・高台付坏。**底径（10.0）・器高〈2.9〉。体部下端～底部 1/3 残存。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。高台部貼り付け。白色粒微量。内外面 2.5Y7/1。焼成良好。**6：土製品・紡錘車。**長さ 3.6・幅 3.7・厚さ 1.8・孔径 0.8・重量 24.8g。完形。ナデ調整。石英・白色粒少量。5YR5/6。焼成良好。**7：土製品・土玉。**長さ〈2.2〉・幅 2.5・厚さ 2.6・孔径 0.6・重量 12.3g。2/3 残存。ナデ調整。石英・白色粒少量。7.5YR6/4。焼成良好。**8：鉄製品・刀子。**長さ〈9.9〉・幅 0.8 ～ 1.5・厚さ 0.3・重量 12.9g。2/3 残存。刃部が欠損している。**9：石製品・砥石。**長さ 7.7・幅 4.7・厚さ 2.8・重量 141.6g。完形。中央部の変形が進み破損したもの。錆の付着が顕著に残り、一部に刀傷痕が残る。上端角に抉りを入れ、紐掛けにしたと考えられる。

SI11

1：土師器・坏。口径（13.8）・器高〈3.9〉。口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。白色粒少量、石英中量。内外面 2.5YR5/6。焼成良好。**2：土師器・甕。**口径（17.0）・器高〈5.7〉。口縁部片。内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。石英・白色粒中量。外面 5YR5/6・内面 7.5YR5/4。焼成良好。**3：土師器・甕。**口径（11.0）・器高〈3.7〉。口縁部片。内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。白色粒少量、石英中量。外面 7.5YR5/4・内面 7.5YR4/1。焼成良好。**4：土師器・甕。**底径（7.2）・器高〈3.0〉。胴部下半～底部 1/4 残存。内面ヘラナデ後ナデ。外面及び底部ヘラケズリ。白色粒少量、石英中量。外面 7.5YR5/4・内面 5YR5/4。焼成良好。**5：土製品・土玉。**長さ 2.6・幅 2.5・厚さ 2.6・孔径 0.4・重量 17.6g。ほぼ完形。ナデ調整。孔周辺に円形の工具痕。石英・白色粒少量。5YR5/4。焼成良好。

古墳時代遺構外

1：土師器・坏。口径(16.8)・器高〈3.5〉。1/3 残存。内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。内外面赤彩。石英・白色粒少量。内外面 2.5YR3/6。焼成良好。**2：土師器・坏。**口径（11.8）・器高 3.9。1/3 残存。内面ヘラミガキ。口縁部外面ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面摩耗。赤褐色粒・白色粒微量。内外面 7.5YR6/4。焼成良好。**3：土師器・坏。**口径（13.0）・器高〈3.8〉。1/4 残存。内面ヘラナデ及びミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。礫微量、石英・白色粒中量。内外面 5YR5/4。焼成良好。**4：土師器・坏。**口径（14.6）・器高〈4.4〉。1/4 残存。内面ヘラナデ。外面粗いヘラケズリ。外面に輪積み痕が残る。石英・礫微量、白色粒多量。内外面 5YR4/4。焼成良好。**5：土師器・坏。**口径（16.0）・器高〈3.9〉。1/5 残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面及び口縁部外面赤彩。白色粒少量、礫中量。外面 5YR5/4・内面 2.5YR3/6。焼成良好。**6：土師器・高坏。**器高〈4.5〉。脚部～裾部 2/3 残存。内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面赤彩。石英・白色粒中量。外面 2.5YR5/6・内面 10YR6/4。焼成良好。**7：土師器・直口壺。**底径 4.8・器高〈11.2〉。体部～底部 1/2 残存。内面ヘラナデ及びナデ。頸部内面に指頭痕残る。外面摩耗の為調整不明。外面赤彩。赤褐色粒微量、石英・白色粒少量。外面 2.5YR3/6・内面 10YR6/4。焼成良好。**8：土師器・甕。**器高〈6.7〉。胴部片。内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面に輪積み痕が残る。破断面に刻み目が残る。石英・白色粒中量。外面 7.5YR5/4・内面 10YR5/3。焼成良好。**9：須恵器・坏身。**口径（10.0）・器高〈3.4〉。口縁部～体部片。内外面ロクロナデ。TK217 型式。白色粒中量。外面 5Y5/1・内面 5Y6/1。焼成良好。

第３章　附編

貝サンプルの分析結果

古墳時代後期の第４号竪穴住居跡を切り込む土坑内貝層を検出し、現地で全量66リットルをサンプルとして採取した。整理作業の結果、貝層の年代は明確にできなかったが、特定の貝種の大きな個体のみからなる特徴的な内容であるため、一部を分析対象とすることとした。調査時の所見では、本土坑は第４号竪穴住居跡の覆土とは明らかに異なり、詳細は不明だが中・近世のものと推定される。土坑内からも古墳時代後期の遺物が出土しているが、後世に混ざり込んだ可能性が高い。

５㎜・2.5㎜・１㎜メッシュのフルイを使って土嚢袋６袋（66リットル）全量を水洗し、貝殻が多い２袋を選別・集計したところ、計測個体数が少ないため、５㎜メッシュのみ全量を選別・集計した。2.5㎜以下は15リットルを選別して微小貝を検出した。骨などはごくわずかであったため、それ以上は選別しなかった。貝種組成、計測値を示し、サンプル１リットル当たりの平均的な種・サイズ組成を示す「標準貝類相」を算出した。

貝種組成は、東京湾内湾干潟に多産した二枚貝３種、ハマグリ・シオフキ・アサリがほとんどを占める。ハマグリは平均66.7㎜・最大115.0㎜、シオフキは平均47.2㎜・最大56.7㎜、アサリは平均45.9㎜・最大53.3㎜と、いずれもきわめて大きい。東京湾沿岸の各時代の分析データをみると、ここまで大きなサイズを採取しているのは弥生時代と中世に限られている（近世は計測試料が少なく不明）。貝類の採取が低調な時期に、大きな個体を選んで採取したものと推定される。なお、2.5㎜以下まで選別を行った15リットルの１㎜メッシュ上から微細な骨片２点と魚鱗１点を検出した。

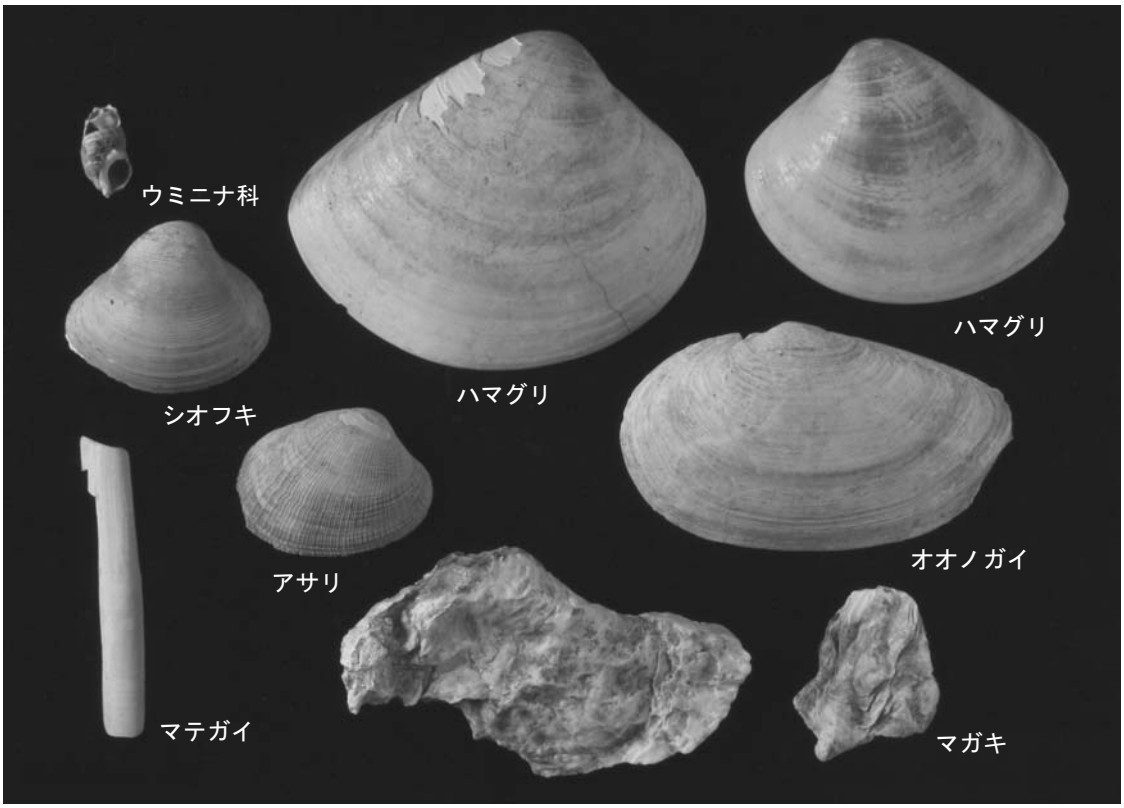


写真１　土坑内貝層出土貝類

第1表　同定結果

丸数字は土嚢袋番号

種名	学名	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
ウミニナ科	Potamididae sp.			1				1
マガキ	*Crassostrea gigas*	1		1	1	1		4
シオフキ	*Mactra quadrangularis*	63	55	32	11	31		192
アサリ	*Solen strictus*	42	27	19	10	13	3	114
ハマグリ	*Ruditapes philippinarum*	166	50	60	49	32	43	400
マテガイ	*Meretrix lusoria*					1		1
オオノガイ	*Mya arenaria oonogai*	1				1		2
合計		273	132	113	71	79	46	714
水洗前体積		17.0	13.0	12.0	12.0	8.0	4.0	66.0
1㎜まで集計		0.0	0.0	7.0	0.0	8.0	0.0	15.0
5㎜のみ集計		17.0	13.0	5.0	12.0	0.0	4.0	51.0
微小貝		ー	ー	138	ー	0	ー	138

第2表　貝種組成

種名	個体数	%
ハマグリ	400	56.0%
シオフキ	192	26.9%
アサリ	114	16.0%
マガキ	4	0.6%
オオノガイ	2	0.3%
マテガイ	1	0.1%
ウミニナ科	1	0.1%
合計	714	100.0%

第3表　貝類計測値分布

ハマグリ殻長

mm	頻度
-35.0	5
-40.0	18
-45.0	10
-50.0	20
-55.0	21
-60.0	26
-65.0	41
-70.0	32
-75.0	34
-80.0	38
-85.0	30
-90.0	15
-95.0	15
-100.0	3
-105.0	3
-110.0	
-115.0	1
試料数	311
平均	66.71
標準偏差	15.87

シオフキ殻長

mm	頻度
-25.0	
-27.5	
-30.0	
-32.5	1
-35.0	1
-37.5	2
-40.0	7
-42.5	18
-45.0	23
-47.5	52
-50.0	49
-52.5	33
-55.0	14
-57.5	5
-60.0	0
試料数	205
平均	47.19
標準偏差	4.28

アサリ殻長

mm	頻度
-37.5	
-40.0	1
-42.5	12
-45.0	25
-47.5	28
-50.0	12
-52.5	10
-55.0	3
試料数	91
平均	45.91
標準偏差	3.20

第4表　標準貝類相

1リットル当たりの平均的な数・サイズ

㎜	ハマグリ	シオフキ	アサリ
-45.0		1	1
-50.0		1	1
-55.0		1	
-60.0	1		
-65.0	1		
-70.0	1		
-75.0	1		
-80.0	1		
-85.0	1		
-90.0			
合計	6	3	2

写真２　貝層検出状況

第４章　まとめ

１　縄文時代

縄文時代の遺構としては、土坑１基が検出された。遺物の出土がなく詳細な時期は不明だが、平面形態及び覆土から判断した。また、遺構に伴わないが縄文時代の遺物が出土している。時期は縄文時代早期・前期・中期である。早期や前期の遺跡は、周辺の宮野木原遺跡（古谷2012）や鳥込貝塚（古内2000）・鳥込東貝塚、谷津台貝塚（谷津台貝塚調査団1982）で確認されており、本遺跡も縄文時代早期・前期において生活域となっていたことが確認された。また、本遺跡の確認調査（倉田2016）でも縄文時代中期中葉～後葉である加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期の竪穴住居跡が検出され、直近の東海道遺跡や小中台遺跡（荻原1989）・小中台Ａ遺跡（飛田1997・田中2007）でも同時期の集落跡が検出されていることから、本遺跡の周辺は縄文時代中期中葉～後葉に集落として機能していたと考えられる。今回の調査では、縄文時代の各時期の遺跡の形成を知る上で貴重な資料を得ることができた。

２　古墳時代

古墳時代の遺構としては、古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡が５軒、古墳時代後期の竪穴住居跡が５軒検出された。古墳時代中期の竪穴住居跡は中期後半の小沢編年５期に位置づけられる（小沢2008）。後期の住居は時期が特定できるものに関してはTK43～217型式期に位置づけられる。

３　平安時代

平安時代の遺構としては、竪穴住居跡が２軒検出された。時期に関しては須恵器の特徴から８世紀末～９世紀初頭に位置づけられる。

周辺遺跡の調査成果を踏まえると、宮野木原第２遺跡の周辺では、縄文時代中期中葉～後葉に集落が形成された後、縄文時代後期～弥生時代後期までは遺跡の形成は活発ではない。その後弥生時代終末になると再び集落の形成が始まり、その後古墳時代中期・後期まである程度継続的に集落が形成されている。特に古墳時代中期～後期にかけては遺構数が増加し、小中台遺跡・新堀込遺跡（萩原1989）・牛尾舛遺跡（飛田1997）で竪穴住居跡及び後期の円墳が検出されている。直近の東海道遺跡でも古墳時代後期の竪穴住居跡が密集して検出され、宮野木原第２遺跡の周辺は古墳時代中期～後期にかけて規模の大きな集落が形成されていたようである。現在までの調査結果から考えれば、その後集落は一度断絶し、宮野木原第２遺跡を含めた周辺遺跡では平安時代以降に再び集落が形成されるようになる。

今年度の調査はごく小規模な面積の調査ではあったが、周辺遺跡も含めた当時の土地利用や集落の変遷を考える上で、貴重な資料を得ることができた。

参考文献

小沢洋2008『房総古墳文化の研究』六一書房

倉田義広2016『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成27年度－』千葉市埋蔵文化財調査センター

田中英世2007『千葉市小中台Ａ遺跡』株式会社アーネストワン・財団法人千葉市教育振興財団

萩原恭一編1989『千葉市小中台（２）遺跡・新堀込遺跡・馬場遺跡　千葉都市計画道路３・４・43号磯辺・茂呂町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３』（『千葉県文化財センター調査報告』第160集）千葉県都市部

飛田正美1997『千葉市小中台Ａ遺跡・牛尾舛遺跡』千葉市小中台牛尾舛土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

古内茂2000「鳥込貝塚」(『千葉県の歴史』資料編　考古１（旧石器・縄文時代）県史シリーズ９）千葉県

古谷渉2012『宮野木原遺跡－平成23年度－』千葉市教育委員会・財団法人千葉市教育振興財団

谷津台貝塚調査団1982『谷津台貝塚』千葉市遺跡調査会

第５表　出土遺物集計表

遺構名				竪穴住居跡																								土坑				調査区		総計
				1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2				
残存				個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	早期・条痕文系	深鉢								1																						3	4
		前期・繊維土器								2						3						10											3	18
		加曽利EⅡ～Ⅲ式				1					3		1			2						2											1	10
		縄文のみ						1			12				2	2																	5	22
		沈線のみ									1																							1
		無文				1					1				1																			3
	石器	石鏃								1																								1
古墳中期	土師器	坏				2		10			17		14		2		20						43		14						1		8	131
		鉢															1																	1
		高坏				1					1		1																				1	4
		直口壺								1						1																		2
		壺類		2							4		1			6						11											5	29
		甕					2	199		3		2	111			75								57						6		13	468
		甑											1			3																		4
		不明																						1										1
	須恵器	坏						1																										1
		甕						1								3																		4
	土製品	支脚										1					1																	2
		土玉																						1										1
	鉄製品	鋌										1																						1
	石製品	砥石						1																										1
		紡錘車														1																		1
		臼玉															1																	1
古墳後期	土師器	坏		6		8		1	5	246		5		10				1	2		7		10										4	305
		鉢							1																									1
		ハソウ							1																									1
		甕		3					1	49				3					1		2												2	61
		甑							1	3																								4
		甕・甑		141						1768				182					41		101								11				137	2381
	須恵器	坏身								1													1											2
		坏蓋																															1	1
		高坏								1																								1
		ハソウ																	1															1
		壺・瓶類																	1		1													2
		甕								8														1										9
		不明								3																							1	4
	土製品	支脚			1				3		1										5													10
		手捏ね							1																									1
		羽口							2	3																								5
		土玉							19																									19
	鉄製品	鉄滓							55																									55
	石製品	砥石							1																									1
		紡錘車							1																									1
古代	土師器	坏				11		2					1										1											15
		甕		2		5				2					1								4										2	16
		甕・甑				234																	404											638
	須恵器	坏身			1	11																1	4											17
		坏蓋			1	1									1																			3
		壺・瓶類											3																					3
		甕				1																												1
	土製品	支脚																				5												5
		紡錘車																				1												1
		土玉			1																	1												2
	鉄製品	刀子			2																	1	1											4
		鉄鏃			2	1																												3
		不明																					1											1
		鉄滓																				1												1
	石製品	砥石																				1												1
中近世	陶磁器	皿									1																						4	5
		碗				4		2		20					2																		10	38
		壺・瓶類				1		2		2					5		1							1									10	22
		甕				1																											1	2
		不明																		1													1	2
	土製品	泥面子			1										2																	1		4
	銅製品	銭																														1		1
	土器	焙烙					2																										4	6
		不明		1											2				1		1												11	16
不明	磨石類								2																									2
	砥石				1															1														2
	軽石製品								1																									1
	剥片														1						1													2
	礫				4		4		14		2					1						6										18		49
	軽石								2		1											1										1		5
	鉄製品	釘							4											2		2												8
		不明			1				5											1		2												9
総計				155	15	283	9	219	123	2150	8	138		214	3	118	1	47	4	114	27	492	1	74				11		7	21	227	4461

第２号土坑全景

第１・２・５号竪穴住居跡全景

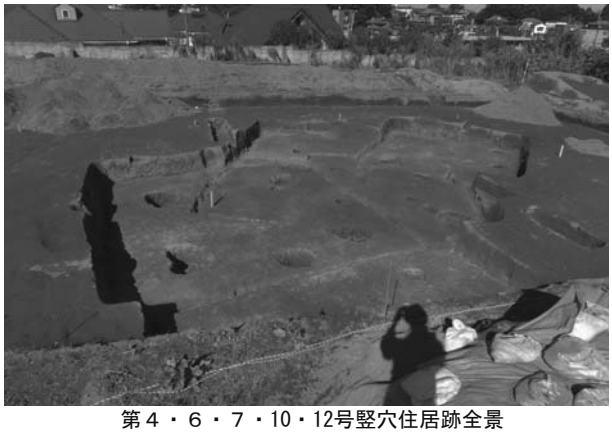
第１号竪穴住居跡全景

第２号竪穴住居跡カマド全景

第５号竪穴住居跡全景

第５号竪穴住居跡遺物出土状況

第３号竪穴住居跡遺物出土状況



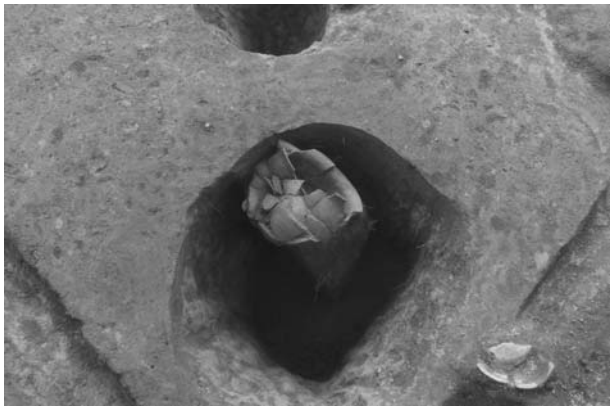
第４・６・７・10・12号竪穴住居跡全景

写真図版２

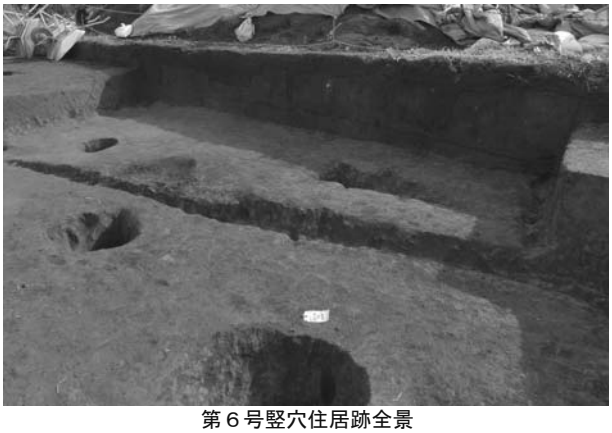
第４・10号竪穴住居跡全景

第４号竪穴住居跡全景

第４号竪穴住居跡カマド全景



第４号竪穴住居跡貯蔵穴遺物出土状況



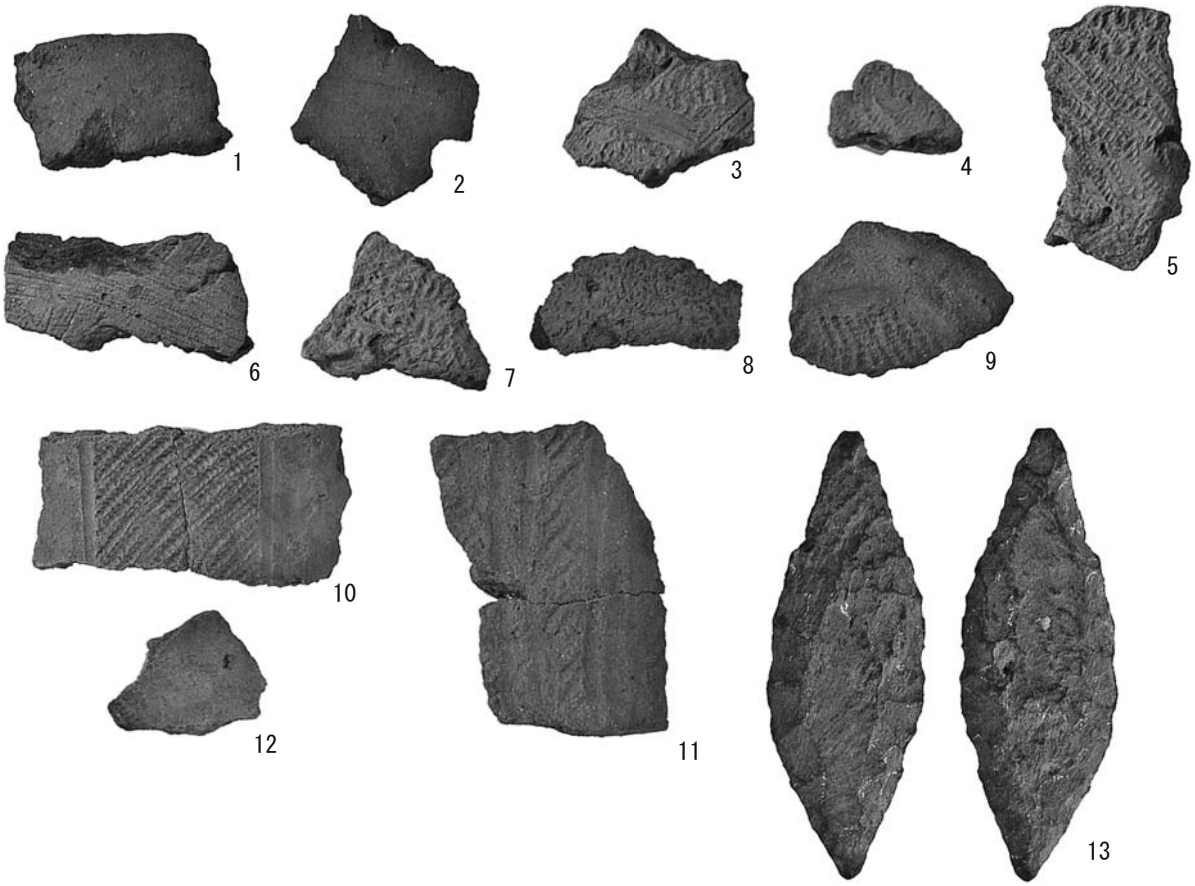
第６号竪穴住居跡全景

第10号竪穴住居跡全景

第10号竪穴住居跡カマド土層断面

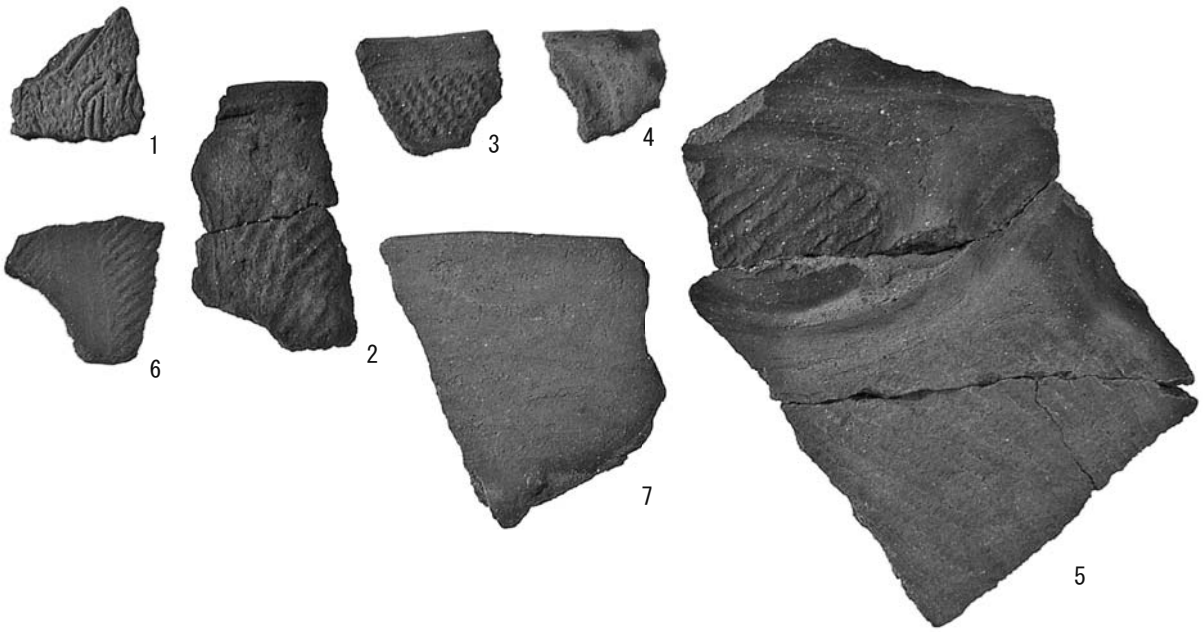
第11号竪穴住居跡全景

縄文時代遺構外出土遺物



表面　　裏面

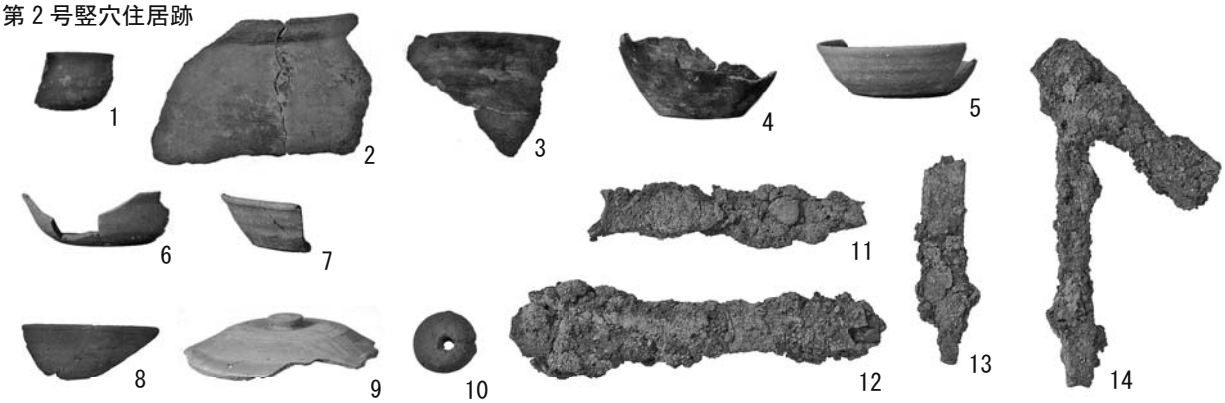
縄文時代出土遺物（確認調査）



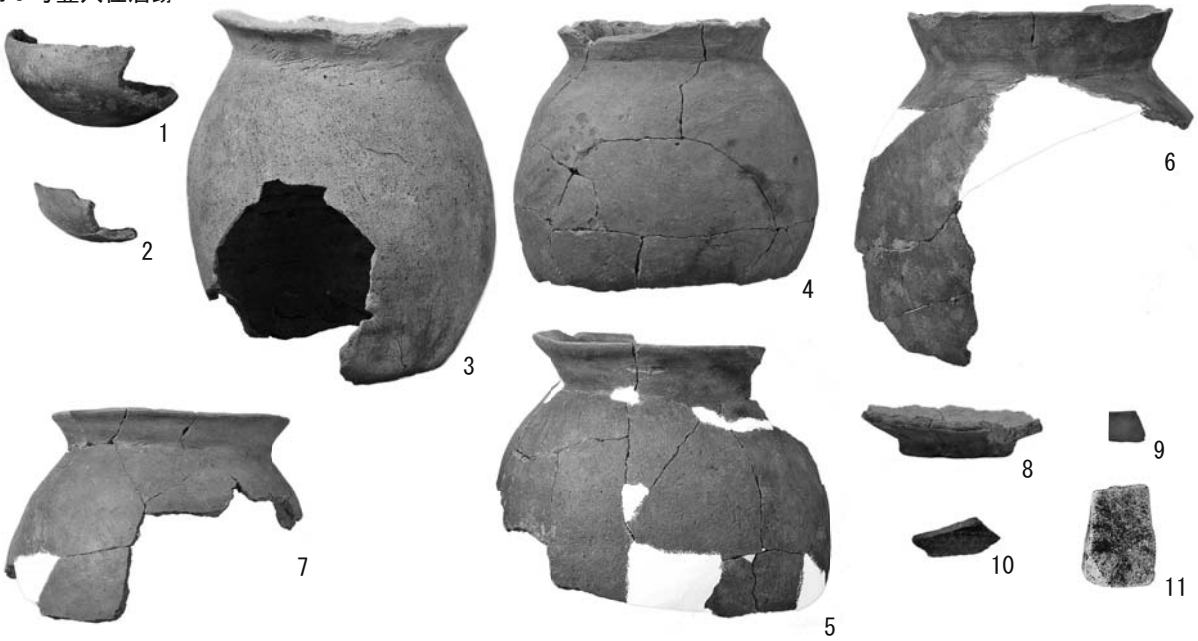
写真図版４

第１号竪穴住居跡

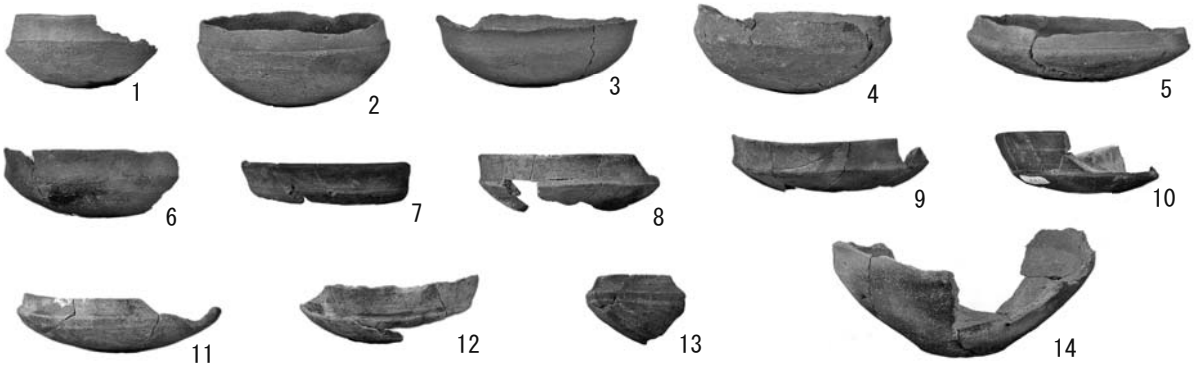
第２号竪穴住居跡



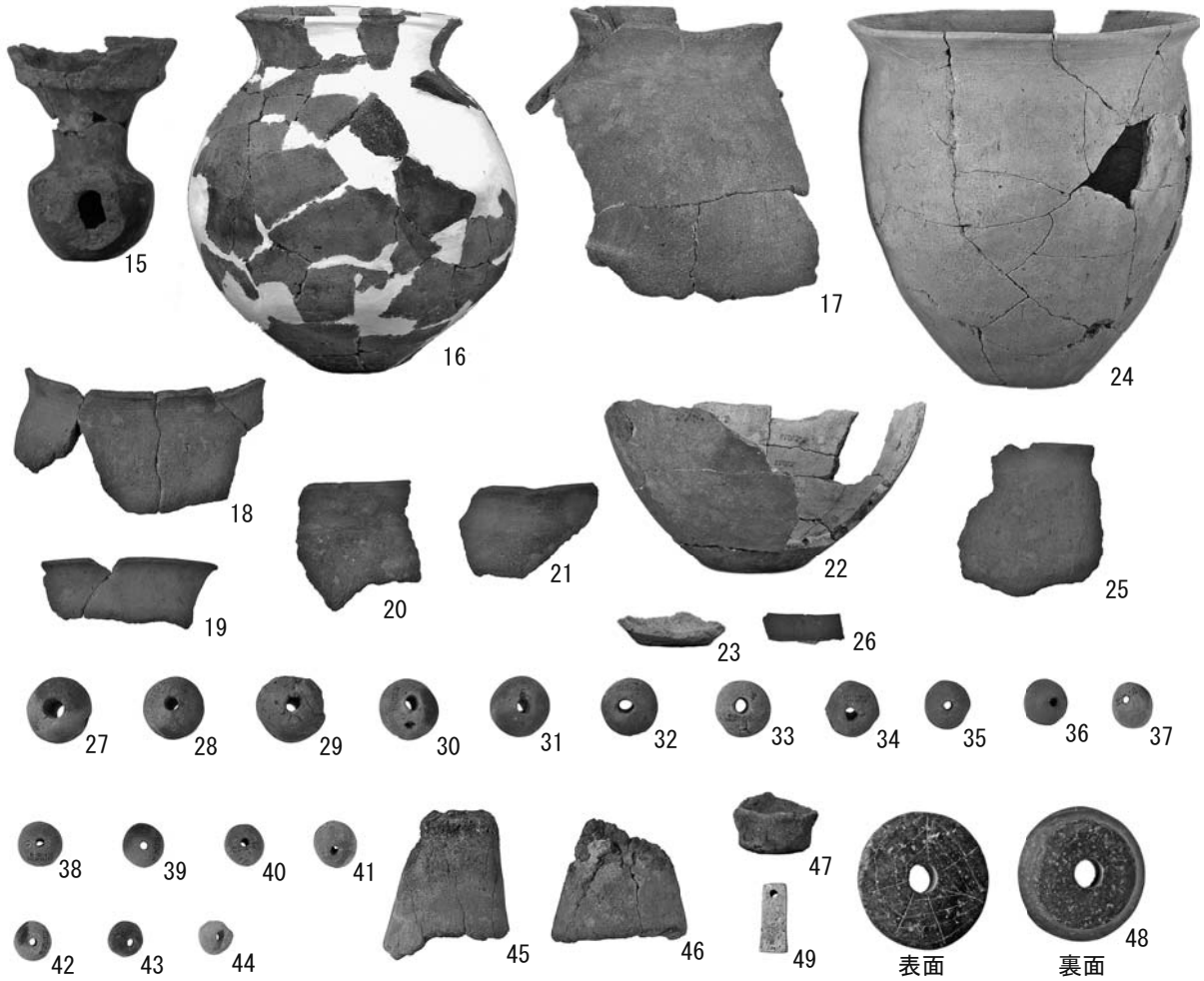
第３号竪穴住居跡



第４号竪穴住居跡



第４号竪穴住居跡

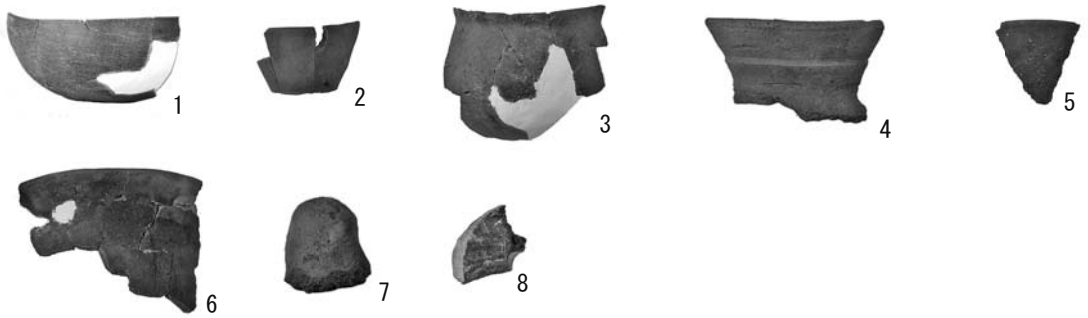


第５号竪穴住居跡

第６号竪穴住居跡

写真図版６

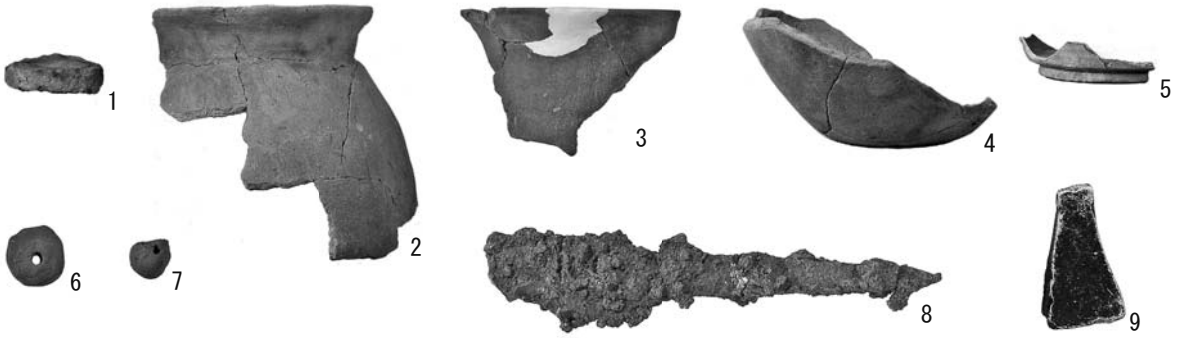
第７号竪穴住居跡



第８号竪穴住居跡

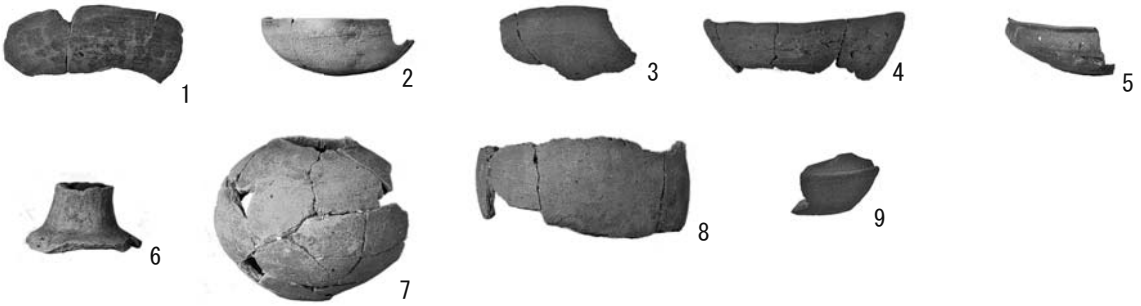
第９号竪穴住居跡

第10号竪穴住居跡



第11号竪穴住居跡

古墳時代遺構外出土遺物



報告書抄録

ふりがな	ちばしみやのぎはらだいにいせき
書名	千葉市宮野木原第２遺跡
副書名	長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小林　嵩・西野雅人
編集機関	公益財団法人　千葉市教育振興財団　事務局　埋蔵文化財調査担当
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 埋蔵文化財調査センター　TEL：043-266-5433
発行年月日	2016年3月18日

ふりがな	ふりがな		コード			経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地		市町村	遺跡番号					
宮野木原第２遺跡（みやのぎはらだいにいせき）	稲毛区（いなげく）　宮野木町（みやのぎちょう）	822	12104	稲毛区	7	北緯　35°　39′　11″ 東経　140°　5′　47″	20150904 ～ 20151013	240 ㎡	長屋住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
宮野木原第２遺跡	集落	縄文時代	土坑	１基	縄文土器・石器	早期・前期・中期
		古墳時代	竪穴住居跡	10軒	土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄製品	中期後半～後期
		平安時代	竪穴住居跡	２軒	土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄製品	８世紀末～９世紀初頭

要約	縄文時代の土坑１基と古墳時代の竪穴住居跡10軒、平安時代の竪穴住居跡２軒が検出された。縄文時代の土坑は時期の特定はできない。遺構に伴わない縄文時代の遺物は早期・前期・中期まで確認された。古墳時代の竪穴住居跡は中期後半から後期にかけての時期幅がある。その後、一度空白期間があり、平安時代に再び集落が形成される。

千葉市宮野木原第２遺跡
－長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－
平成28年３月18日発行

編　　集　　公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局　埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
ＴＥＬ：043-266-5433
発　　行　　清宮　正雄

印　　刷　　株式会社　正文社
〒260-0001
千葉市中央区都町1-10-6
ＴＥＬ：043-233-2235